

令和3年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール

実施報告書

令和4年3月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015年度受賞

【表紙写真】 井之頭小学校セカンドスクール（長野県飯山市戸狩）

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱（現行）	7
プレセカンドスクール実施要綱（現行）	9
武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱（令和4年4月1日 施行）	11
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	13
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	16
令和3年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	18
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校	20
第二小学校	25
第三小学校	29
第四小学校	33
第五小学校	36
大野田小学校	38
境南小学校	43
本宿小学校	47
千川小学校	52
井之頭小学校	57
桜野小学校	62
<中学校セカンドスクール>	
第一中学校	68
第二中学校	72
第三中学校	76
第四中学校	80
第五中学校	84
第六中学校	86
<プレセカンドスクール>	
第一小学校	92
第三小学校	96
第五小学校	100
大野田小学校	104
境南小学校	108
本宿小学校	112
千川小学校	115
井之頭小学校	118
関前南小学校	123
桜野小学校	128

（注）セカンドスクール（関前南小学校）、プレセカンドスクール（第二小学校、第四小学校）は中止

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度
 - ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度
 - ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度
 - ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度
 - ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度
 - ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度
 - ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度
 - ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度
 - ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度
 - ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。
- 平成14年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。

- 平成15年度
 - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール＊を4校にて試行。
 ＊プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
 - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）。
- 平成23年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。
- 平成25年度
 - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。

- 平成26年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われた（長野県飯山市）。
- 平成27年度
 - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施した。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行った。
- 平成28年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力した。
- 平成29年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 平成30年度
 - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更した。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校6校、中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 令和元年度
 - ・第三小学校が、セカンドスクールとプレセカンドスクールの実施地を入れ替え、セカンドスクールを新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールを群馬県片品村で行った。
 - ・第四中学校が長野県飯山市から群馬県みなかみ町へ実施地を変更した。
 - ・新学習指導要領との調和、事業の持続可能性の検討等を行うため、「長期宿泊体験活動検討委員会」を設置した。
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の「子供の農山漁村体験活動の充実・推進に向けた手引き」において、大野田小学校と第四中学校のセカンドスクールの事例が掲載された。
 - ・新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会の「子ども農山漁村体験の果たす教育的意義」をテーマとした講演会において、セカンドスクールの意義について講演を行った。

- 令和 2 年度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校中止。
 - ・令和元年度に設置した「長期宿泊体験活動検討委員会」が、令和 2 年度末に終了した。
検討委員会での協議を踏まえ、新たな活動内容や育成を目指す資質・能力について、パブリックコメントを募集し、報告書にまとめた。(P. 6 参照)
- 令和 3 年度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程変更・宿泊数の短縮・活動内容の変更等をして実施した。なお、セカンドスクールでは、関前南小学校、プレセカンドスクールでは、第二小学校、第四小学校が中止した。
 - ・令和 2 年度に設定した、活動内容や育成を目指す資質・能力を明確にするため、実施要綱の改訂を行った。(令和 4 年 4 月 1 日施行)

今後の武蔵野市長期宿泊体験活動の内容の体系

自然体験活動

学習形態

中学一年生

小学五年生

小学四年生

◆子ども自身が挑戦したい自然体験活動

- (例)
- SDGsに関する調査や自然体験活動
 - 現地の自然に関するボランティア活動
 - 災害時に活用できる知識・技能を学ぶキャンプ泊
 - ハイキングや登山のコース選択や設定、挑戦

◆自然と人との調和の大切さを体感する活動

- (例)
- 現地の自然を感じるハイキングや登山
 - 星空観察
 - 天気や川原の観察
 - 現地の環境問題の調査
 - 農業体験、林業体験（社会科との関連）

◆武蔵野市と異なる自然の豊かさに触れる体験

- (例)
- 現地の自然（山、川、湖、滝、鍾乳洞、森林等）を感じるハイキングやトレッキング
 - 月や星の観察
 - 宿周辺の動植物の観察

◆他者との協働による課題解決の機会を設定

- (例)
- グループ毎による追究型の課題解決体験
 - ・現地の現代的な課題や解決方法の調査
 - ・現地と武蔵野市との比較、ポスターセッション
 - 現地の中学生との交流

◆他者とのよりよい人間関係を築く場の設定

- (例)
- 分宿による仲間づくりや協調して生活することの大切さの実感
 - 感謝を伝える活動の計画、役割分担、準備、実施
 - 現地の小学生との交流

◆集団生活の基礎を身に付ける場の設定

- (例)
- 集団生活のさまりや公衆道徳の理解
 - 集団生活の基礎を身に付ける体験
 - 今日の活動の振り返りや、明日のめあての話し合い活動

よりよい人間関係の形成を育む活動

当該学年にふさわしい特色ある活動

◆持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験

- (例)
- 現地の農林水産業、伝統、観光に関する調査
 - ブシ職場体験、特産品の加工、製造、販売等
 - 現地のガイドブック作り
 - ・フィールドワークを通して調査、取材、編集等

◆各教科等の学習に関連する活動

◆民宿への長期にわたる分宿体験活動

- (例)
- 民宿の方との語らい（歴史、くらし）
 - 郷土食の調理、会食
 - 感謝を伝える活動（感謝の会、周辺の清掃等）
 - 年間を通して宿泊地と関わる活動

◆所属校や武蔵野市とは異なる場での出会い

- (例)
- 現地の人々の生活や産業と武蔵野市との関わりを調べる活動
 - 現地の方々と関わる活動

教員の働きかけ

児童・生徒一人一人の活動やグループ活動の見守り、その変容や状況に応じた賞賛、促し、励まし等、支援や指導に努める。

評価

☆児童・生徒一人一人の学びの過程を、目指す資質・能力に照らし合わせ、成長した点を評価する。

☆事前事後のアンケート調査の実施、分析・評価をし、日常の教育活動や次年度のプログラムに生かす。

目指す主な資質・能力

自然を愛する心、

課題解決能力

情報活用能力、

人間関係形成

社会参画

自己実現

【表の見方について】

この表は、長期宿泊体験活動検討委員会で協議されたこと、学習指導要領に示されていることなどを基に作成した各学年における長期宿泊体験活動中における体験活動の例示です。各学校で、体験活動の実施プログラムなどを組む場合の一つの参考例として示しました。なお、現地のガイドブック作り、郷土食の調理、宿の方との語らい等々、そのねらいや、内容・方法等がその学年段階に合ったものであれば、小学校でも中学校でも計画化できます。学校の枠は弾力的に考えてください。

武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。

(活動内容)

第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舍内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童及び生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

付 則（令和3年4月1日要綱第171号抄）

(施行期日)

1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。
- (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

(活動内容)

第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

(現行)

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

付 則 (令和3年4月1日要綱第171号抄)

(施行期日)

1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立の小学校及び中学校に在籍する児童及び生徒が自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在し、授業の一部として、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動（以下「長期宿泊体験活動」という。）を実施し、自然を愛する心、課題解決能力、情報活用能力並びに人間関係形成、社会参画、自己実現に係る資質及び能力を育むことを目的とする。

(長期宿泊体験活動の区分)

第2条 長期宿泊体験活動の区分及び実施学年は、次のとおりとする。

- (1) プレセカンドスクール 小学校第4学年で実施するもの
- (2) 小学校セカンドスクール 小学校第5学年で実施するもの
- (3) 中学校セカンドスクール 中学校第1学年で実施するもの

(活動内容)

第3条 長期宿泊体験活動の活動内容は、小学校セカンドスクールを基準として、プレセカンドスクール及び中学校セカンドスクールの内容及び方法を、次に掲げる具体的な活動内容を参考に、系統性をもって、発展及び充実をさせるよう各学校が創意工夫して学習活動を計画し、実施するものとする。

- (1) 自然体験活動 主にプレセカンドスクールにあつては武蔵野市とは異なる自然の豊かさに触れる活動、小学校セカンドスクールにあつては自然と人との調和の大切さを体感する活動、中学校セカンドスクールにあつては生徒が挑戦したい自然体験活動を設定する。
- (2) よりよい人間関係の形成を育む活動 主にプレセカンドスクールにあつては集団生活の基礎を身に付ける活動、小学校セカンドスクールにあつては他者とのよりよい人間関係を築く活動、中学校セカンドスクールにあつては他者との協働による課題解決をする活動を設定する。
- (3) 当該学年にふさわしい特色ある活動 主にプレセカンドスクールにあつてはファーストスクール及び武蔵野市とは異なる場所での人々との出会いがある活動、小学校セカンドスクールにあつては長期にわたる民宿での分宿体験活動、中学校セカンドスクールにあつては持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験及び各教科等の学習に関連する活動を設定する。

2 授業時間の配当については、実施学年の各教科、特別活動、総合的な学習の時間及び特別の教科である道徳とする。

(令和4年4月1日 施行)

- 3 校長は、長期宿泊体験活動の教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により届け出なければならない。

（実施場所）

- 第4条 校長は、長期宿泊体験活動の実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

- 第5条 長期宿泊体験活動の引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員も普段の学校の教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。この場合において、引率及び指導にあたる教員は、実施期間中に交代することができるものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等の生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 長期宿泊体験活動には、各学校につき看護師等1人を同行させるものとし、児童及び生徒の健康管理にあたるものとする。

（費用）

- 第6条 児童及び生徒の保護者は、児童及び生徒に係る食費の額を考慮して武蔵野市教育委員会教育長が別に定める費用を負担するものとする。

（その他）

- 第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、武蔵野市教育委員会教育長が別に定める。

付 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。
（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱等の廃止）
- 2 次に掲げる要綱は、廃止する。
 - (1) 武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）
 - (2) 武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱（平成17年4月1日適用）

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成15年度)

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)	
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)	
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)	
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)	
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町						群馬県川場村
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩			
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩						(7泊8日)
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)	
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)	
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)	
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)	
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)						山形県遊佐町 (7泊8日)
第一中学校	長野県豊科町 (6泊7日)	東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村				長野県北安曇郡 白馬村
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町				
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市			
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)		長野県飯田市			
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町	
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)				

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2 平成4年 ……長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

※3 平成5～6年……岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成16年度～)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
第一小学校				→新潟県魚沼市		(6泊7日)			
第二小学校	(平成16年11月1日 南砺市へ新設合併)								
第三小学校		→群馬県片品村			(7泊8日)			(6泊7日)	
第四小学校						(6泊7日)			
第五小学校							→新潟県南魚沼市 (6泊7日)		
大野田小学校									
境南小学校						(6泊7日)			
本宿小学校								→新潟県南魚沼市	
千川小学校			→山形県鶴岡市			(6泊7日)	→新潟県南魚沼市		
井之頭小学校				→長野県飯山市 戸狩					
関前南小学校					(8泊9日)	(7泊8日)	→長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)		
桜野小学校					(5泊6日)	(7泊8日)	→長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)		
第一中学校									
第二中学校		→平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併							
第三中学校									
第四中学校									
第五中学校		→平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併							
第六中学校		→平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併							

※4 令和3年度・・・新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

[illegible]

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	〔平成17年11月1日〕 甲州市へ新設合併					千葉県 館山市	東京都 檜原村
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市						山梨県 富士河口湖町
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市	
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)								
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)							山梨県 山中湖村
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)							山梨県 北杜市
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)	
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市		
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	〔平成18年3月27日〕 香取市へ新設合併	東京都檜原村				
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村						
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)								
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)						山梨県 富士河口湖町

※1 令和3年度・・・新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 ※1
→	山梨県 富士河口湖町						→	中止	→ (1泊2日)
							→	中止	中止
							→	中止	→ (1泊2日)
							→	中止	中止
							→	中止	→ (1泊2日)
							→	中止	中止
							→	中止	→ (1泊2日)
		→	山梨県 山中湖村				→	中止	→ (2泊3日)
							→	中止	→ (1泊2日)
			→	山梨県 山中湖村			→	中止	→ (1泊2日)
		→	山梨県 富士河口湖町				→	中止	→ (日帰り)
					→	東京都 奥多摩町	→	中止	→ (日帰り)
							→	中止	→ (2泊3日)
山梨県 山中湖村							→	中止	→ (日帰り)

令和3年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名	当初実施予定日				実施結果等				実施場所	現地宿舎
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月22日(水)	～	9月28日(火)	6泊7日	延期	11月3日(水)	～	11月5日(金)	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9月19日(日)	～	9月25日(土)	6泊7日	延期	11月20日(土)	～	11月23日(火)	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	9月27日(月)	～	10月1日(金)	4泊5日	延期	11月10日(水)	～	11月12日(金)	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	9月29日(水)	～	10月5日(火)	6泊7日	中止	2月2日(水)	～	2月4日(金)	長野県飯山市	-
						代替	2月28日(月)		(日帰り)	神奈川県藤沢市・鎌倉市	-
	第五小学校	9月9日(木)	～	9月15日(水)	6泊7日	代替	11月9日(火)		(日帰り)	千葉県野田市	-
						中止	2月24日(木)	～	2月26日(土)	新潟県南魚沼市	-
	大野田小学校	9月16日(木)	～	9月22日(水)	6泊7日	延期	11月26日(金)	～	11月29日(月)	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9月16日(木)	～	9月22日(水)	6泊7日	延期	2月8日(火)	～	2月10日(木)	長野県飯山市 →山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	本宿小学校	9月23日(木)	～	9月27日(月)	4泊5日	延期	2月2日(水)	～	2月4日(金)	新潟県南魚沼市	民宿
						再延期	2月27日(日)	～	3月1日(火)	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9月16日(木)	～	9月22日(水)	6泊7日	延期	10月25日(月)	～	10月27日(水)	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9月22日(水)	～	9月28日(火)	6泊7日	延期	11月9日(火)	～	11月12日(金)	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月24日(金)	～	9月28日(火)	4泊5日	代替	10月22日(金)		(日帰り)	長野県北安曇郡白馬村 →東京都青梅市	-
	第二中学校	5月19日(水)	～	5月22日(土)	2泊3日	中止	9月1日(水)	～	9月3日(金)	新潟県十日町市松之山	-
						代替	11月4日(木)		(日帰り)	東京都八王子市	-
	第三中学校	9月27日(月)	～	10月1日(金)	4泊5日	代替	12月10日(金)		-	長野県北安曇郡白馬村 →学校に招いて交流	-
	第四中学校	9月28日(火)	～	10月2日(土)	4泊5日	延期	11月30日(火)		(日帰り)	群馬県利根郡みなかみ町	-
	第五中学校	9月13日(月)	～	9月17日(金)	4泊5日	代替	12月9日(木)		-	長野県北安曇郡白馬村 →オンライン交流	-
						中止	2月4日(金)		(日帰り)	千葉県富津市	-
小学校プレセカンドスクール	第六中学校	9月2日(木)	～	9月6日(月)	4泊5日	延期	10月24日(日)	～	10月27日(水)	長野県安曇野市	公営宿泊施設
	第一小学校	9月15日(水)	～	9月17日(金)	2泊3日	延期	11月24日(水)	～	11月25日(木)	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第二小学校	10月6日(水)	～	10月8日(金)	2泊3日	中止	2月15日(火)	～	2月16日(水)	山梨県南都留郡富士河口湖町	-
	第三小学校	9月14日(火)	～	9月16日(木)	2泊3日	延期	10月28日(木)	～	10月29日(金)	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	9月1日(水)	～	9月3日(金)	2泊3日	中止	9月1日(水)	～	9月3日(金)	群馬県利根郡片品村	-
	第五小学校	9月22日(水)	～	9月24日(金)	2泊3日	延期	11月18日(木)	～	11月19日(金)	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6月16日(水)	～	6月18日(金)	2泊3日	延期	11月3日(水)	～	11月5日(金)	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校	9月29日(水)	～	10月1日(金)	2泊3日	延期	11月15日(月)	～	11月16日(火)	山梨県南都留郡富士河口湖町 →山中湖村	ホテル
	本宿小学校	10月3日(日)	～	10月5日(火)	2泊3日	延期	11月25日(木)	～	11月26日(金)	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	千川小学校	10月4日(月)	～	10月6日(水)	2泊3日	短縮	10月6日(水)		(日帰り)	山梨県南都留郡富士河口湖町	-
	井之頭小学校	10月6日(水)	～	10月8日(金)	2泊3日	延期	11月19日(金)		(日帰り)	東京都西多摩郡奥多摩町	-
	関前南小学校	9月22日(水)	～	9月24日(金)	2泊3日	延期	11月17日(水)	～	11月19日(金)	静岡県島田市	公営宿泊施設
	桜野小学校	9月9日(木)	～	9月11日(土)	2泊3日	延期	11月12日(金)		(日帰り)	山梨県南都留郡山中湖村	-

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

11月3日～11月5日(2泊3日)

参加人数 男子38名 女子37名
計 75名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・魚沼市の自然や産業において、地域の特性を生かした工夫や人々のくらしの様子についての課題を見付け、情報を収集し、課題を解決する力を育成する。
- ・自然の中での体験を通して、自然と人間との共生や環境保全の必要性について思考したり、自然に対して畏敬の念を抱いたりして、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・宿舎での生活を通して生活習慣を身に付け、児童理解や協力し合う態度を育成する。また、自主的な集団生活を通して、個性の伸長を図る。
- ・地域の大人や指導員等、関わる人々との交流を深め、それらの人々や保護者に対する感謝の念を育てる。
- ・学習を振り返り、目的に応じて表現の方法を工夫しながら、わかりやすく伝えられる力を身に付ける。

○日程表

11月3日(水)		11月4日(木)		11月5日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	9:00	課題別学習	8:00	荷物整理・大掃除
13:30	開校式	12:00	昼食	9:30	セカンドスクールまとめ
15:00	守門地区散策	12:40	課題別学習	10:30	閉校式
17:00	健康観察・入浴	15:30	学習のまとめ	11:00	守門発
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	12:40	昼食(赤城高原 S.A)
19:00	はじめましての会	18:00	夕食	14:00	トイレ休憩
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	15:30	学校到着
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		帰校式
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	16:00	解散

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。その際、魚沼市の米の収穫量や品質などを表した表やグラフを活用し、地域の特性を生かした米作りが魚沼市の産業を支えていることを理解した。
- ・2学期より、武蔵野市と魚沼市との比較を、人口や産業など様々な観点から調べた。魚沼市に関する情報収集をする中で、現地で質問したり見学を通して確かめたりしたいことについて意見交換を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの体験内容、セカンドスクールを通しての学びや成長を保護者に向けて発表する機会を設定した。課題別学習においては、魚沼市と武蔵野市の比較を通し、今後武蔵野市に貢献できそうなことを出し合ったり、地域の特性を生かしたまちづくりや環境保全について考えたりして、それらを発表する機会を設定した。また、初めての宿泊学習を通して、集団生活の上で大切なことや宿舎での生活で大切にしたこと、協力し合えたことについても発表した。
- ・国語の学習で、セカンドスクールを通して自分が努力したことや成長したことを考え、文章にまとめた。また体験活動について、計画や内容といった事実と、活動して思ったこと等の考えを区別しながら活動報告書を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 須原スキー場

スキー場で現地ガイドの説明を受けながら、魚沼市の地形を見た。米作りに適した地形や気候などについて説明をしていただき、「米作りに適した地形」について標高の高い場所からその様子を確認することができた。

2 スノーボールの設置体験

雪国の暮らしにおける人々の工夫について講話を聴いた。豪雪地帯では、雪によって隠された道路の幅を示して安全を確保するため、スノーポールを設置しなければならないことを知り、その設置体験を行った。土中深くまで穴をあけ、数メートルもあるポールを設置することで、安全に生活するための工夫や、雪国での暮らしにおける苦労を実感することができた。



【スノーポールを設置している様子】

＜社会体験活動＞

課題別学習

魚沼市を知る学習として「魚沼の観光」「魚沼の産業」「雪国の歴史」「雪国の暮らし」の4グループに分かれて、事前に調べた資料から内容を厳選して見学を行った。

(1) 魚沼の観光

「魚沼の観光」では、JR 只見線乗車と西福寺開山堂の見学を行った。只見線の歴史に関する講話をしていただき、昔から人々の暮らしにとって電車は欠かせないものであったことや近年の乗車数減少により廃線の危機にあることなどを知り、須原地区にとって大切な財産であると感じていた。西福寺開山堂では、堂内の彫刻や絵画作品を見学し、昔の伝統文化が大切に保存され引き継がれていることを実感していた。



【JR 只見線 駅のホームでの様子】

(2) 魚沼の産業

「魚沼の産業」では、産業物産品の流通施設の見学・酒蔵の越後ゆきくら館の見学と魚沼そばパスタ商品開発の説明を受けた。米を中心とした産業物産品の流通を扱う「八色物産」では、魚沼市で育てられた米の貯蔵や管理・品質の検査の様子を見学した。質の高い米を消費者に届けるため、米の品質チェックの方法を体験し、チェック表をもとに米の選定を疑似体験することができた。また、そばパスタの商品開発の説明では、米以外にも地域の産業を盛り上げようと工夫している人々の様子や思いを感じることができた。

(3) 雪国の歴史

「雪国の歴史」では、魚沼市の歴史博物館の見学を行った。雪国で暮らす人々の苦勞から、より快適に生活するための工夫が展示されており、地域や気候の特性に合わせた道具や施設がつけられているということを学習することができた。また、米づくりが盛んに行われるようになるまで、川や水の整備・水田の開拓などが行われてきたことを学んだ。



【魚沼市歴史博物館見学の様子】

(4) 雪国の暮らし

「雪国の暮らし」では、スキー場や除雪車等の見学を行った。地域の方の講話を通し、生活に支障が出るほどの大雪の中でも、雪を生かした生活や産業を豊かにしていこうと、地域の人々が工夫していることを学んだ。

<生活・文化体験活動>

宿舎での集団生活

家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げ等の活動にも取り組んだ。指導員や民宿の方の指導の下、事前に分担した係ごとに責任をもって取り組み、互いに協力し合いながら生活する様子が見られた。また、仲間と協力して過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところに気付いたり、協力して生活していく事の大切さに気付いたりと友情を深めることができた。



【「語らいの時間」の様子】

「語らいの時間」には、係ごとに一日を振り返り、良かった点と改善点を出し合って翌日のめあてを決める姿も見られた。最終日には、お世話になった新潟の「お父さん」「お母さん」に「感謝の会」を通してお礼の気持ちを伝えた。

○児童の感想

- ・事前の学習で宿舎での約束ごとを係で話し合い、きちんとみんなに伝えて気持ちよく生活できるように準備をしました。「語らいの時間」では、守ってほしいことをみんなに伝えることができたので、二日目の生活はとても充実していました。とくに、食事の準備や片付けは、みんなで協力して取り組むことができたのでとても良かったです。
- ・昨年度、プレセカンドスクールに行くことができず、私たちにとっては初めての宿泊学習でした。両親と離れてみんなと一緒に3日間過ごすことが不安でしたが、友達と協力し合って生活することで、自分一人でもできることがたくさんあるということに気付きました。これからの生活では、親に頼りつきりにならず、自分でできることは自分で取り組んでいきたいです。また、宿舎のお父さん・お母さんへの感謝の気持ちをもつことができたので、普段気にかけてくれている両親にも感謝の気持ちをもって生活していきたいです。
- ・魚沼は、本当にお米が有名だということがよくわかりました。地域の特性を生かして、たくさんのおいしいお米を作ることができたのは、昔の人の努力もあったということが分かりました。武蔵野市とは違うけれど、それぞれの地域でその場所にあった産業が発展していくとよいと思いました。
- ・只見線が須原地区の人々の生活にとって欠かせないものだということが分かりました。しかし、利用する人が減ってきていて廃線の危機であるということを知りました。昔から大切にされてきている只見線がなくなると、只見線とそこから見えるきれいな自然を多くの人に知ってもらいたいと感じました。
- ・武蔵野市とは違って、自然がきれいで豊かな場所だと感じました。雪国で生活することは苦労も多いけれど、そこで生活している人たちはいろいろな工夫をして生活を豊かにしているということに気付きました。自然や環境も大切にしながら、武蔵野市も、もっと豊かで生活しやすいまちになっていくために、何をしていけばよいか考えようと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・今年度、稲刈りや脱穀などの体験活動は行うことができなかったものの、事後に魚沼から送られてきたお米を使って、調理実習を行った。家庭科の学習とセカンドスクールでの学習を関連させながら実習に取り組ませることができた。
- ・初めての宿泊学習を通し、実生活でも自分自身で身の回りのことをしていこうとする気持ちを高めた。特に家庭での生活において親に頼らず、自分のことは自分で取り組もうとする意欲を高めることができた。また、学校生活においても友達と協力することの大切さを実感し、学級内の係や当番活動を率先して行おうとする姿が見られるようになった。
- ・課題別学習に関しては、セカンドスクール後、現地で学んだ自然や地域の特性から興味・関心をもった事柄について追究し保護者に伝える活動を通して、魚沼市と武蔵野市の違いに気付いたり、武蔵野市の生活に繋げて考えたりすることができた。
- ・国語科では、セカンドスクールでの学びや体験について、活動報告書を書いた。目的や意図に応じて詳しく書いたり、表現の効果等について工夫しながら書いたりすることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・課題別学習では、児童が課題意識をもつ内容と見学先が一致するよう、毎年場所の選定について検討を続けている。今回「魚沼の観光」「魚沼の産業」「雪国の歴史」「雪国の暮らし」の4つをテーマにしたことで、児童にとって学習がしやすい体制をとることができた。今後も、児童の実態に合わせて柔軟に対応できるよう、校内での申し送りを確実に行うほか、現地の方との連絡を密に行う必要がある。
- ・児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼の民宿の方は高齢化傾向にある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、見通しをもち、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていく等、対応していく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

11月20日～11月23日(3泊4日)

参加人数 男子24名 女子27名
計51名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきとともに環境と人との関わりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・利賀村の自然や人々の生活などに自ら課題をもち、主体的に追究する力を付ける。
- ・学校や利賀村で学習したことを工夫してまとめ、伝える力を付ける。
- ・利賀村の人々と心の交流をし、豊かな自然体験活動を通して、自然や利賀村のくらしに対する興味・関心を高める。

○日程表

11月20日(土)		11月21日(日)		11月22日(月)		11月23日(火)	
7:30	集合(武蔵境駅)	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:03	武蔵境駅発	8:30	民宿活動	9:00	利賀小との交流会	9:00	閉校式
9:36	東京駅発		(五平餅作り)	10:00	課題別活動	12:10	新高岡駅発
12:15	新高岡駅着	11:15	昼食(そば)	11:30	昼食	14:52	東京駅着
13:35	新高岡駅発	13:00	ハイキング	13:00	相倉合掌造り見学	15:17	東京駅発
14:10	利賀村着 開校式	14:30	林業体験	15:45	民宿活動	15:54	武蔵境着
15:20	民宿着 はし作り	16:30	民宿着	17:00	入浴		解散式
17:00	入浴	17:00	入浴	18:00	夕食	16:20	解散
18:00	夕食	18:00	夕食	20:00	ありがとうの会		
20:00	手紙書き	20:00	民宿の方のお話	21:30	就寝		
21:00	就寝	21:30	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - ① 「武蔵野の森を育てる会」の方を招いて、実際に樹木や森林の話をしていただいた。
 - ② 森林について課題を設定し、社会科の学習につなげた。
 - ③ 利賀村について、自然や特産物、伝統、歴史、くらしなどを調べた。

2 事後の学習内容

- ・社会科の単元「森林とわたしたちのくらし」の学習を3学期に行った。

- ① 人工林や天然林のはたらきなどを調べ、その役割について学んだ。
- ② 林業について学習し、林業の仕事をしている人の工夫について学んだ。
- ③ 土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについて学んだ。

- ・セカンドスクールで学んだこと、感じたことをまとめ、4年生に発表した。発表する内容ごとにグループに分かれ、しおりの内容をもとに模造紙や学習者用コンピュータに活動内容をまとめ、発表内容を話し合い、工夫して伝えるように指導した。
- ・セカンドスクールでの体験を、学習者用コンピュータを使ってまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

当日は天候にも恵まれ、現地のインストラクターに先導してもらい、ハイキングを行うことができた。1グループにつき一人のインストラクターが付いたことでグループごとに利賀村の森林の話やそこに生息する動植物の話をくわしく聞くことができた。植物に触れながら、植物の名前やその特徴を学び、生活の中でどのように使われてきたのかについても知ることができた。社会科で学習した人工林、天然林についても、森林を歩いたり実際に樹木に触れたりすることで、その違いについて理解を深めることができた。



【ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 林業体験

木の伐採方法やチェーンソーの実演を見た後、一人一人がのこぎりを使って「丸太玉切り体験」を行った。

今回は例年とは違い、短時間で切れる木を使い、伐採した。自分で切った丸太に穴をあけてもらい、キーホルダーづくりを行った。森をつくり、育てていくという林業に携わる仕事を体験した。この体験と学校での学習を結び付け、林業の大切さについて学びを深めることができた。



【林業体験の様子】

2 利賀小学校との交流会

今年度の利賀小学校との交流会は、短時間で行った。第二小学校は運動会で披露した「二小ソーラン」、利賀小学校は「麦屋節」「大縄・ダブルダッチ」を互い



【利賀小学校との交流会の様子】

に発表した。その後、小グループに分かれ、自己紹介や質疑応答などの交流を行った。

＜生活・文化体験活動＞

1 民宿での体験活動

6班に分かれ民宿に分泊した。3泊4日の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができた。同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを、身をもって感じる事ができた。

さらに、民宿の方との温かい触れ合いを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもとより、普段お世話になっている人たちに対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えることができた。民宿別活動では、野菜の収穫や選別体験、民宿近くの散策、五平餅作りなど、各民宿の特色ある仕事や利賀の伝統的な活動を体験した。



【もちつき体験】



【五平餅づくり体験】

○児童の感想

- ・新幹線の窓から見える景色が武蔵野市とは違い、利賀村に近づくにつれて豊かな自然があって驚いた。景色が変わっていくのがよく分かった。
- ・武蔵野市では普段はできない貴重な体験ができて楽しかった。
- ・大人になったらまた、利賀村に遊びに行きたいと思う。
- ・セカンドスクールでは、民宿の方や指導員の先生、担任や引率の先生など多くの方に支えられていることが分かった。
- ・林業体験では、実際に体験しないと分からない木を切る難しさや手作業の大変さを感じることができた。押すときよりも引くときに力を入れると上手く切ることができることが分かった。
- ・相倉合掌造り見学では、合掌造りというものを初めて見た。資料館には昔使っていた道具がたくさんあって、びっくりした。今の暮らしとの違いを実際に見ることができてよかった。
- ・3泊4日お世話になった民宿の方とお別れするのはとても寂しかったが、3日目の夜にみんなでありがとうの会を行い、感謝の気持ちを伝えることができてよかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度も総合的な学習の時間「利賀の森は地球を守る」として実施した。

セカンドスクールでは、ハイキングや散策、林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりした。民宿の方にも利賀村の森林や自然についてのお話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。民宿活動や課題別活動を通して、利賀村ならではの文化やくらしのよさについて体験しながら感じることもできた。

セカンドスクール後は、児童一人一人が、民宿での活動や様々な活動を通して学んできたことを学習者用コンピュータにまとめたほか、武蔵野市民科との関連も考え、「武蔵野市の人に利賀村のよさを伝えよう」というテーマで総合的な学習の時間の学習を進めることができた。3学期に4年生や保護者に向けて発表を行った。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・日程及びプログラムの組み方については、全般的に充実した体験活動を行うことができた。自然体験活動をはじめ、民宿ごとに特色のある活動を行うことができた。
- ・11月中旬の実施となったが、天候や気温にも恵まれ、利賀村でしかできない活動を短期間で行うことができた。
- ・今年度は3泊4日という短期間で行ったため、1日の中の活動が多くなってしまい、児童が慌ただしく活動することになった面もあった。
- ・ねらいを達成するために「心絆〜きずな〜」というテーマを設定し、自分が集団の中で何ができるかを常に意識させたことで、児童は本番でも友達と深く関わり、切磋琢磨しながら、様々なことを乗り越えることができた。
- ・「自分のことは自分でできるようになること」を目標に民宿での生活や活動を行った。初めは民宿の中で整理整頓が苦手だった児童が、周りの児童の助けを借りながら徐々に自分の身の回りのことができるようになっていき、児童の変容を感じた。
- ・民宿の見回りの際に、他の民宿の片付けの様子や工夫した点を伝え、児童は競うように部屋の整頓を始めた。児童の取り組みや工夫が他の班の児童に良い刺激を与え、学年全体として、民宿での生活を充実させることができた。
- ・今年度延期に伴い、天気や気温の予想がつかなかったため、往路は児童が自分で荷物をもっていったが、復路は私費で郵送することにした。児童からは「大きな荷物がなかったため、動きやすい」という感想があがった。保護者からは、「2日ほどで荷物が届き、指定することもできたのでよかった」という意見をいただいた。児童の安全確保のために、来年度は往路も復路も郵送できるようにしたい。
- ・来年度は、実施期間を1泊減らし6泊7日のセカンドスクールが初めての実施になるので、活動内容を精選し、まとめられる活動はひとまとめにするなど短い時間の中でも充実した活動になるようにする。
- ・次年度は児童数の増加に伴い民宿も増やす必要があるため、活動内容について南砺市商工会利賀村事務所と調整する必要がある。

第三小学校

新潟県南魚沼市

11月10日～11月12日(2泊3日)

参加人数 男子41名 女子29名
計70名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長期の宿泊による生活時間を利用し、生活上の自立に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・自然の中で豊かな体験活動を通して、南魚沼の自然や暮らしの工夫に関する知識を身に付ける。
- ・南魚沼の自然や地域の特性について自ら課題をもち、主体的に課題を追究する力を育てる。
- ・南魚沼の歴史や文化に触れ、引き継がれてきた地域の良さや人々の努力に気づき、進んで表現しようとする力を育てる。
- ・地域の人々との交流を通して、人間関係を深めるとともに、それらの人々や保護者に対する感謝の念を育てる。
- ・自主的な集団生活を通して、児童理解や協力し合う態度を育成する。

○日程表

11月10日(水)		11月11日(木)		11月12日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	開校式	8:30	朝会	8:30	朝会
12:00	各民宿あいさつ	9:00	座禅体験(龍澤寺)	9:00	農業体験
12:30	昼食(弁当)	10:30	観光協会出発	11:30	昼食
13:30	観光協会出発	12:00	新潟県立歴史博物館到着	12:15	閉校式
13:45	牧之通り見学・紬機織り体験	12:15	昼食	12:45	出発
16:30	牧之通り・紬機織り体験出発	13:00	新潟県立歴史博物館見学	15:45	学校着
17:00	夕方の会		勾玉作り体験	16:00	解散
17:30	入浴	15:30	新潟県立歴史博物館出発		
18:00	夕食	17:15	夕方の会		
19:30	学習の記録	17:30	入浴		
20:30	健康観察	18:30	夕食		
21:00	消灯	19:30	感謝の会		
		20:00	学習の記録		
		20:30	健康観察		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールのめあてや出発までに行う調べ学習について、スライドショーをもとに確認した。一昨年の活動を振り返り、さらに調べたいことや知りたいことをもたせるようにした。
- ・南魚沼市の自然や気候、特産物、雪国ならではの暮らし方などから、各グループで課題を決め、インターネットや参考資料から情報を集めて、課題解決をした。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成して、事前に送付した。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、レクリエーション係の係ごとに集まり、仕事内容の確認をし、準備を行った。
- ・指導員との交流会では、質疑応答などをして信頼関係を深めた。

2 事後の学習内容

- ・事前に調べたことに加えて、実際に行って気付いたことや学んだことをまとめて、各グループで発表会をした。
- ・3学期には、4年生に向けてセカンドスクール報告会を行った。自分の学習課題について体験したことや学んだことを伝え、4年生のセカンドスクールへの意欲を高めた。

○特色ある学習内容

<社会体験活動>

1 農業体験

民宿の方の畑へ行き、大根・人参・さつま芋・食用菊などの収穫を行った。収穫した後に水で泥を落としたり、丁寧に並べて干したりと、農家の方の苦労や工夫を体験して知ることができた。

<生活・文化体験活動>

1 座禅体験

龍澤寺の座禅体験では、住職から座禅の基本である「調身、調息、調心」の意味や座禅の組み方を教わり、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中する貴重な体験ができた。上杉謙信とゆかりある寺であることや龍澤寺の歴史についても住職から聞き、日本文化や現地の歴史に触れる良い体験になった。



【座禅体験】

2 塩沢紬機織り体験

塩沢紬機織り体験では、自分で選んだ糸を使って一人3センチメートルずつ織り進めていった。機織り機のこつをつかむと、手際よく織ることができ、早く終わった児童は同じグループの友達に教えている姿が見られた。

3 牧之通り見学

各グループに地元のガイドさんが付き、雁木とは冬季の通路を確保するために家屋の一部やひさしなどを延長したものであるなど、豪雪地帯の生活の知恵を教わり、東京での生活との違いに気付くことができた。

4 新潟県立歴史博物館見学・勾玉作り体験

ガイドさんによる、縄文時代の春夏秋冬の衣食住のことやここでしか見ることのできない火焰土器の特徴の説明に興奮している姿が見られた。館内には豪雪地で有名な上越市を再現した雁木通りがあり、大雪時の貴重な生活の様子を見学することができた。

勾玉作り体験では、勾玉の歴史や効果などの説明を聞き、削ったり磨いたりなどをして、古代の首飾りを作り上げた。



【新潟県立歴史博物館】

○児童の感想

- ・2泊3日、衣食住をともにして協力することの大切さを学んだ。
- ・「自分のことは自分でやる」という意識をもって生活できるようになった。
- ・農業体験では、大根を洗う時に、泥を一つ一つたわしで落とさなければならない上に、水が冷たかったので大変だった。農家の人たちの苦労が分かった。
- ・班長として、食前食後のあいさつなど、みんなが気付かないところを進んで見つけるのは大変だった。今後の学校生活でも、決まりやルールなどに気付いて声掛けをしていきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「自分のことは自分で」「しおりを見て行動」「集合時間に遅れない」といった基本を学ぶことができた。今回のセカンドスクールは、当初の予定より短い宿泊日数となったが、現地ならではの見学や体験などのできる行程を設定した。児童は、担任や指導員からの指示がなくても、声を掛け合って活動することができた。分からないことを直ぐに聞くのではなく、しおりを見て確認して、集合時間に遅れないように行動できるようになったのは成長の一つである。また、宿の方や現地指導員など、多くの人と関わり合う中で、感謝の気持ちをもつことができた。友達同士でも「お互いに気持ちよく過ごすにはどうすればいいか」を学び、普段の生活にも生かされている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・児童の民宿が本部宿から近く、教員が見回りしやすかった。緊急の場合もすぐに駆けつけることができた。
- ・最終日の午前中に体験活動を行ったため、現地出発が1時となり、高速を下りてからの交通渋滞に巻き込まれ、児童の下校が遅くなった。次年度は、最終日の行程を見直し、出発時刻を早められるように計画を立てたい。
- ・新潟県立歴史博物館の見学や体験を午後のみに設定したため、児童によっては勾玉作りを完成することができなかった。次年度は、1日中過ごせるような計画を立てていきたい。

第四小学校

神奈川県藤沢市・鎌倉市

2月28日

参加人数 男子29名 女子29名
計58名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・セカンドスクールで学んだことや体験したことを武蔵野市や日本の学習に生かし、その地域の良さや課題を考える力を身に付ける。
- ・豊かな情操や感性を育む。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。

○日程表

2月28日（月）	
8:00	学校集合・出発式
8:15	学校出発
10:00	新江ノ島水族館
11:45	昼食
12:15	バス移動
12:45	鶴岡八幡宮
13:30	バス移動
15:30	学校着・帰校式

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学習の見通しをもち、自分の学習課題を設定する。
- ・事前の調べ学習を行い、現地で確かめたいことを考える。

2 事後の学習内容

- ・現地での学習で学んだことを整理した。
- ・総合的な学習の時間の報告会へ向けた準備を行い、4年生に対して報告会を行った。
- ・これまでの学習を振り返り、次の学習への意欲を高めた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1 新江ノ島水族館

新江ノ島水族館では、事前学習で興味をもった展示ごとにグループを作り、グループごとに見学をした。見学を通して、相模湾の多様な生物を知り、自然について学ぶことができた。また、グループごとに時間や規則を守り行動することで、集団行動について学んだ。

＜社会体験活動＞

1 鶴岡八幡宮

鶴岡八幡宮では、学級ごとに境内をまわった。添乗員の説明を聞き、鎌倉の歴史について学ぶことができた。また、周囲にあるたくさんの自然に触れ、武蔵野市と異なる地形に興味をもつことができた。



【鶴岡八幡宮の見学】

○児童の感想

- ・ 鶴岡八幡宮の見学では、源頼朝が文化面に深く貢献して、自然も大切にしていることが分かった。自然で囲まれている鎌倉の土地は、何か歴史的な背景が関係しているのではないかと考えた。6年生の歴史の学習では、今回学んだことを思い出して、学習を深めていきたい。
- ・ 3年生以来の校外学習だったので、現地に着いたら何をしたら良いか、どう行動したら良いか不安だったけれど、班の仲間が協力し合って集合時間にしっかり集まることができた。3年生のときより成長を実感することができた。6年生になったらさらに今の力を伸ばすことができるようにしたい。
- ・ イルカなどのたくさんの動物に興味をもつことができた。特にイルカショーでは、トレーナーとイルカの努力と絆が伝わってきて、すごいと思った。鎌倉では歴史に触れることができた。グループ活動では、まとまって行動することができ、より仲を深めることができてよかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度は、「地域のよさを知る・人との関わりを深める・感謝の気持ちを伝える」をテーマにセカンドスクールの学習を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、飯山市での稲刈りや脱穀等の体験活動は行うことができなかったが、代替学習として鶴岡八幡宮と新江ノ島水族館の見学を行った。事前の調べ学習と、現地での見学を通し、鎌倉市と武蔵野市の違いに気づき、武蔵野市の良さと繋げて考えることができた。また、鶴岡八幡宮の見学を通して歴史や文化に触れることができ、鶴岡八幡宮と新江ノ島水族館の見学とファーストスクールでの学習を関連させながら取り組むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・児童が総合的な学習で学習過程を自ら考え、課題解決に向けて取り組むことができた。課題解決学習を繰り返し、互いの表現の工夫や考えの違い、よさを知る機会を一層多くもつことができた。認め合うことで自信となり、学習意欲が高められたことは成果である。
- ・飯山市に行くことはできなかったが、武蔵野市のよさを探るとともに自分たちにできることを考え、実践し、次に生かす活動を通して、地域への愛着、地域に進んで関わろうとする市民性が少しずつ育まれてきた。
- ・武蔵野市民科は、年間を見通してカリキュラムマネジメントを実施し、教科等を横断して地域への愛着、地域に進んで関わろうとする市民性を育むことを意識して取り組んでいく。

第五小学校

11月9日

千葉県野田市

参加人数 男子44名 女子39名
計83名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自ら進んで活動したり学習したりしようとする態度を養う。
- ・自然と触れ合ったり、体験したりすることを通じて、自然の大切さを学ぶ。
- ・家庭を離れて、自分の力でできることを増やしたり、感謝の気持ちを伝えたりする中で、心の成長を図る。
- ・一人一人のよさを認め合いながら協力し、問題の解決に向けた探究に取り組もうとする態度を養う。

○日程表

11月9日（火）	
7:45	学校集合
8:00	バス出発
9:30	清水公園到着 「飯盒炊爨体験」
12:00	昼食
13:00	植物園見学
14:10	見学終了
14:20	清水公園出発
16:00	学校到着

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・米どころである南魚沼市でセカンドスクールを行うということで、大きなテーマを「米」として各自が「なぜ、おいしいお米が生産できるのか」や「おいしいお米と水や気候はどのような関係性なのか」など課題を設定し、調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・事前の学習のテーマを深めるとともに、現地での学習を通して考えた新たな課題を設定し、調べ学習を行った。テーマを米にしぼり、「世界の米と日本の米の違い」や、「米作りに関わる人々の工夫」など、グループごとに課題を深めた。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 飯盒炊爨体験

現地の講師の方に教えていただき、かまどを作り、火をおこしてカレーライス作りをした。かまどの作り方・薪の組み方・火の持続の仕方などを学び、同じ班の友達と協力しながら火おこしに取り組んだ。火おこしをする班と調理をする班に分かれて活動し、全ての班が自分たちの力で火をおこし、カレーライスを作ることができた。家庭科で学習した調理の仕方を生かし、協力して取り組むことの喜びを得る体験となった。



【飯盒炊爨体験】



【カレーライス作り】

○児童の感想

- ・飯盒炊爨体験では、友達と声を掛け合うなど協力してカレーライスを作りました。出来上がった時の達成感は格別でした。
- ・友達と一日過ごす中で、大変なこともあったけど、それ以上に協力して頑張ったことが多く、とても充実した一日でした。今まで以上に友達と仲良くなることができました。
- ・セカンドスクールでは、様々なことを学びました。学んだことをファーストスクールで生かし、下学年の手本となるような五小の最高学年になりたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、学年のテーマでもある「考動」について考えながら行動することができた。「自分のことは自分でやる」ということだけでなく、「仲間と協力して、生活をする」という活動の様子が多くみられた。ファーストスクールでの生活にも、セカンドスクールでの経験を生かし、最高学年になるに向けてさらに成長していくことを期待したい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

活動の内容は、「米」にしばって事前学習を行ったことで、児童に明確に課題をもたせることができた。また、事後学習において、現地での疑問から新たな課題を設定したことにより、より意欲的に学習に取り組むことができた。

例年、事後学習の内容を「六日町交流会」で報告している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、自分たちの学級で調べたことを発表した。今後、児童の実態に応じた発表内容や方法を検討していく必要がある。

大野田小学校

長野県飯山市

11月26日～11月29日(3泊4日)

参加人数 男子63名 女子59名
計122名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長野県や飯山市の自然、文化、産業、オリンピック・パラリンピックについて興味関心を持ち、課題を見付けすすんで調べようとする態度を養う。
- ・課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。
- ・体験的な活動、他者とのコミュニケーションを通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択することができるようにする。
- ・自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力や、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

○日程表

11月26日(金)		11月27日(土)		11月28日(日)		11月29日(月)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:50	小布施 SA 昼食	9:00	課題別学習①	9:00	課題別学習③	8:00	荷物整理、大掃除
13:20	戸狩着、開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	9:00	学習のまとめ
15:00	はしづくり	13:00	課題別学習②	13:00	クラフトワーク	10:20	閉校式
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	10:35	戸狩出発
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食 お礼の会	12:00	横川 SA 昼食
19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:30	今日のまとめ	15:10	学校着、帰校式
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	15:40	解散
						21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「戸狩の観光大使になろう」というめあてのもと、セカンドスクールで「戸狩のよさ」について学習を進め、セカンドスクール後に4年生や保護者の方に向けてプレゼン大会を行うという見通しをもたせて学習を行った。
- ・社会科と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用して、長野県飯山市戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。豊かな水を生かして生活をしていることや、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることを知り、これらの特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・長野県飯山市の自然や伝統や文化、産業について本やインターネットで調べてから個人のテーマを設定し、課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・国語科と関連付け、話し合い活動を生活班のメンバーで事前に行い、考えを深めるために大切なこと（比較する、関連付ける、結合する等）を理解させた。
- ・個人のテーマについて調べたことをまとめ、相互に調べたことを報告し合った。

2 事後の学習内容

- ・戸狩で学んだことや戸狩のよさ、武蔵野市民科とつなげて武蔵野市のよさについても話し合った。
- ・戸狩観光大使として、4年生・保護者に向けてプレゼン発表会を行った。
- ・プレゼン発表会用のスライドを学習者用コンピュータで作成した。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 「川と森に関すること」についての課題別学習

飯山市での初雪を体験することになった。積雪も20cm程度まで積もり、東京ではなかなか味わえない貴重な体験となった。

川と森の学習では、雪が降る中、ブナ林を散策し、木の幹を伝って雨水や雪解け水が地面に吸収され、山全体の保水能力により、一度に川へ流れないような仕組みになっていることを学んだ。

日本海側の気候を肌で感じ、豊かな自然と雪国の冬の厳しさを体験することができた。



【川と森に関すること】

＜社会体験活動＞

1 「雪国の暮らし」についての課題別学習

「雪国の暮らし」では、様々な雪対策が講じられていることを学んだ。消雪パイプ、窓の板格子、梯子の設置、除雪用の重機などを実際に見学した。また、戸狩の方は豊富な雪を上手に活用し、米づくりや野菜作りに生かしていることを学んだ。2日目早朝には雪が10cm程積もっており、友達との雪遊びや雪かきなども貴重な体験となった。



【雪国の暮らし】

＜生活・文化体験活動＞

1 はし作り

1日目の開校式の後、各宿に移動して最初の体験活動「はし作り」を行った。小刀とやすりを使って、セカンドスクール期間中、自分自身が使うはしを作った。竹を削る作業が予想以上に難しく、作業が思うように進まない児童もいたが、教え合いながら完成させることができた。



【はし作り】

2 和紙すき体験・ふるさと館

紙の特性が生かされた美しい和紙である「内山紙」を、「雪さらし」という独特の方法で漂白し、はがきサイズの和紙にする体験をした。

今から約400年前から始まったといわれる内山紙の製造方法を知り、原料に楮のみを用いていることが一番の特徴であることを学んだ。

ふるさと館では、雪国の暮らしに使われた様々な道具や資料を見たり体験したりすることができた。織り機があり、実際に手足を使って布を織ることもできた。



【和紙すき体験】

○児童の感想

- ・現地の初雪、そしてものすごい大雪を経験できたことが何よりも印象に残った。東京は晴れていて暖かくても、日本海側はこんなに気候が違うのかと本当に驚いた。
- ・雪に対する対策がたくさんあって、それらを知ることができたのが良かった。雪下ろしがとても危険で、やらないと家がつぶれてしまうというのにはびっくりした。
- ・雪が多く降る地域で、実際に大雪に遭遇して冬の生活が大変なことが分かった。地元の人々は雪を上手に活用して生きてきたことを知った。自然を活用して農業・観光業に力を入れていることが分かった。
- ・戸狩のよさは、冬に雪がたくさん降ることだと感じた。春から夏にかけて豊かな雪解け水となり、米づくりや他の農業に生かしていることが分かった。地元の人たちは豊かな水を守り、みんなで協力して生活していることが分かった。
- ・東京や武蔵野市にはない自然の厳しさを間近で体験することができた。それぞれの土地のよさがあると思ったので、他の土地のよさも知りたいと思った。
- ・事前に様々なことを学べたが、戸狩に暮らす人の生活については実際に自分自身が生活をして気付くことがたくさんあった。
- ・120人で動くということ、5分前集合、話を聞く姿勢、みんなで協力するときに大事なこと、整理整頓の仕方など、たくさんのことを学ぶことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

事前学習において、戸狩の気候や土地の特色を調べることに加え、抱える問題点についても学んだ。単元を「戸狩の観光大使になろう」と設定し、事後にプレゼン発表会を設けたことで、子どもたちは戸狩のよさを見付けるという目標をしっかりとってセカンドスクールを過ごしていた。どう情報を集めてどのように話し合い、考えていけばよいかを知るよい機会となった。

共同生活を通して、集団行動において大切なことを多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に変化が見られた。今後も継続していけるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

＜成果＞

- ・11月下旬に3泊4日で実施した。短縮バージョンとなったが、寒くなる時期を踏まえ、冬の戸狩の特色を存分に味わえるプログラムを組むことができた。また、多少の雨（雪）でも実施できる内容が多く、2日目と3日目は大雪となったが、当初の予定を変更せずに済んだ。
- ・毎年実施していた稲刈りやカヌー体験は実施できなかったが、代わりに初雪から結構な積雪になり、雪国の暮らしを学び、雪かきや雪合戦なども体験することができた。自然を感じながら雪国の暮らしの工夫を学び、児童にとって雪と触れ合ったことが最も思い出に残った。
- ・話し合い活動を毎日設定したことで、意見を出し合うよさを実感させることができた。

- ・今年配布された学習者用コンピュータを全員現地へ持って行き、1日のまとめや振り返りを
入力し、語らいの時間などに活用した。担任から児童への連絡にも活用することができた。
- ・1クラス2宿ずつ合計8宿としたことで児童の様子を把握しやすかった。各宿に指導員を男
女1名ずつ配置できたので、生活自立を促したり児童が指導員に相談しやすくなったりして、
集団生活の基礎を養うことができた。
- ・大きな怪我や病気がなく、安定した3泊4日を過ごすことができた。

<課題>

- ・大雪となりバスが駐車場まで入れず、最終日の「学習のまとめ」の場所の変更を余儀なくさ
れた。はじめから悪天候でも大丈夫なように、トピアホールをおさえておく。
- ・指導員の方の着替えの部屋や、語らいの時間での関わり方など、連絡が十分に伝わっていな
いケースがあり、その都度、対応をお願いした。実地踏査や事前確認の際に、確認漏れや連
絡漏れがないよう、チェックリストを作成し、民宿との連絡を十分に図る。
- ・セカンドスクールで育成する資質・能力がさらに身に付くよう、学習者用コンピュータの活
用、事前・現地・事後の学習のすすめ方、学習のまとめ方を検討する。
- ・指導員の事前研修を実施し、児童とのよりよい関わり方、運営への参画等の意識を高める。
- ・日程について確認し、無理のない時間配分を行う。(3日目夕食後、帰路のトイレ休憩等)

境南小学校

山梨県南都留郡山中湖村

2月8日～2月10日(2泊3日)

参加人数 男子45名 女子37名

計82名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・地形や気候を生かした農業体験や自然体験を通して、働く人々の工夫を理解すると共に、富士山周辺の自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる。
- ・地域の伝統食に触れ、伝統食に込められた知恵や工夫を知る。
- ・体験活動や地域の人との交流を通して、自ら課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・課題を解決するため、調査活動を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

2月8日(火)		2月9日(水)		2月10日(木)	
7:45	学校集合	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:00	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
	談合坂 SA(トイレ休憩)	7:40	朝食	7:40	朝食
10:00	富士山世界遺産センター着 見学	9:20	湧水の里水族館・森の学習館着 見学	8:20	清掃 出発準備
12:00	宿舎着 昼食	11:00	旭ヶ丘栈橋着	9:10	閉校式 帰校式
13:30	ネイチャーラリー		遊覧船	10:30	各民宿着
15:30	開校式	12:20	宿舎着 昼食		ほうとう作り見学
16:00	入浴	13:50	クラフト体験	11:00	昼食
	学習の記録	15:30	周辺散策 学年レク準備	12:00	出発
18:00	夕食	16:00	入浴	13:30	足柄 SA (トイレ休憩)
19:00	星空観察		学習の記録	14:30	港北 SA (トイレ休憩)
	はがき書き	18:00	夕食	15:20	学校着 解散
20:15	健康観察	19:00	学年レク		
20:40	就寝準備	20:15	健康観察		
21:00	消灯	20:40	就寝準備		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・宿泊を伴う共同生活に向けて、集団行動のルール、集団生活のマナーについて指導した。特に、集団生活を楽しく安全に行うには、5分前行動を意識して時間を守って行動することや一人一人がしっかり話を聞くこと、友達と協力して行動することが大切であると確認した。
- ・生活班の係ごとに役割を話し合った。食事や入浴の仕方などの約束を決め、学年全体で共有し、セカンドスクールで実行できるようにした。
- ・児童一人一人が探究学習のテーマを設定し、グループに分かれて事前学習を行った。現地で知りたいことやインタビューの内容を考え、学びたいことの明確化を図った。

【探究テーマ】

- ・自然 ・観光 ・水 ・富士山 ・伝統食

2 事後の学習内容

- ・現地で調べたことをどのように生かしたいかを児童が話し合い、探究テーマが異なる児童に学んだことを発表することになった。同じテーマの児童同士が、現地で学んだことを学習者用コンピュータのジャムボードを用いて共有し、発表したい内容を整理した。その後、Googleスライドの共同編集機能を使ってまとめ、テーマごとに発表し合った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ネイチャーラリー

宿舎「グリーンヒルズニューみなみ」のグラウンドを借りて、富士山ネイチャークラブによるネイチャーラリーを行った。「綱渡り」、「パチンコ鉄砲」、「火起こし」など8種類の自然体験をした。便利な道具がない時代、人間はどのように生活を送っていたのかをテーマに、日常生活ではなかなか意識しない感覚を研ぎ澄まして活動をした。「重さ当て」体験では、グループで話し合って同じ重さのものを選んだ。グループで合意形成する姿が見られた。児童は、様々な自然体験を通して、主体性や協働性を高めることができた。



【パチンコ鉄砲体験】

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

南館では、施設の方に案内していただき、富士山の自然文化遺産としての価値についての話を伺った。富士山と人々との関わりや世界遺産に登録されるまでの歩みについて学び、なぜ富士山が日本人から親しまれているのかについて考えることができた。北館では、富士山の自然

を中心とした展示物を見学した。館内では、インタビューをしたり、クイズ形式のワークシートを活用して調べたりしながら、学んだことを記録した。

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に住む魚を観察することができた。児童が普段行くような海水魚の水族館ではなく、淡水魚の水族館ということで新たな発見が多くあった。また、富士山の湧水を使用した水槽は透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。シアターで「アユの冒険」の映像資料を観たり、施設の方にインタビューしたりしたことによって、富士五湖や周辺の川に住む魚や自然環境についてより理解や興味が深まった。

3 遊覧船「白鳥の湖」

「日本一の富士の麓である山中湖に、日本一美しい白鳥を浮かばせよう」をコンセプトにしている遊覧船に乗った。天候に恵まれ、遊覧船からは富士山をはっきり見ることができた。また、湖面が凍結している様子も見られた。乗船後は、鴨や白鳥に餌やり体験をしたり船長さんにインタビューをしたりした。山中湖の自然の雄大さを感じるとともに、自然を生かした観光業について学ぶことができた。



【遊覧船からの景色】

<生活・文化体験活動>

1 クラフト体験

宿舎「グリーンヒルズニューみなみ」の体育館を借りて、富士山ネイチャークラブによるクラフト体験を行った。山中湖周辺の植物の中から好きな材料を選び、フォトフレーム作りを楽しんだ。自然の物を使って、物作りをする楽しさを実感することができた。

2 ほうとう作り見学

各学級に分かれて、忍野村の民宿でほうとう作り見学を行った。民宿の方がほうとうを作る工程を間近で見ることができた。作り方だけではなく、歴史や道具の説明、うどんとの違いなどについて話していただき、ほうとうについて詳しく学んだ。見学後は、実際にほうとうを食べ、山梨県の郷土料理についての理解を深めた。



【ほうとう作り見学風景】

○児童の感想

- ・ネイチャーラリーでは、普段は体験できないことができて楽しかった。火起こし体験では、成功したときはうれしかったし、昔の人はこんなに大変だったと実感することができた。

- ・遊覧船では、富士山がとてもきれいに見ることができて感動した。白鳥に餌をあげたときは、あんなに近くで白鳥と触れ合えると思わなかったので、ドキドキした。
- ・一人一人が時間を意識して行動して、皆で協力することができた。班長として、みんなをまとめたり連絡を伝えたりして、役割を果たせたと思う。とてもやりがいを感じた。
- ・遊覧船の船長さんにインタビューをすることができた。声を掛けるのは緊張したが、新しいことが知れたので行動して良かった。
- ・学年レクでは、皆で協力して楽しむことができた。学年の絆が深まったように感じた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールを通して、本校の目指す児童の姿である「主体的に学ぶ」ということを意識して学習や生活をすることができた。探究学習では、自ら学びたいテーマを設定したことにより、現地では意欲的に調べたり施設の方などにインタビューしたりすることができた。生活では、しおりを自分たちで確認して、見通しをもって行動することの大切さを学んだ。また、生活班の係活動では、事前に準備する内容や現地で行う役割などを児童の話し合いで決定した。例えば、班長は、開校式などの挨拶の原稿を自分たちで見合ったり、班長会議で話し合う内容を児童自身が決めたりしたことによって、自分事として主体的に活動することができた。

さらに、共同生活の中で交友関係が広がったり、より深まったりしたことで仲間意識が高まった。協力して楽しむ経験をしたことで、思いやりや温かい人間関係がもたらす心地よさを感じることができた。今後のファーストスクールでの人間関係や集団としての団結力にも、良い影響をもたらすことが期待される。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・探究学習において、「現地の人々に話を聞いてくる」ということを意識して指導したことによって、現地の人との交流の場をもつことができた。
- ・富士山ネイチャークラブと連携して体験活動を行ったことにより、児童が富士山周辺の自然に親しむことができた。
- ・午後の行程に余裕があったので、連携している施設や団体と時間の調整をする必要がある。
- ・今回は延期によって冬季の実施となり、地形や気候を生かした体験学習をあまり行うことができなかったため、行く時期やプログラムを考え直す必要がある。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

2月27日～3月1日(2泊3日)

参加人数 男子32名 女子32名
計 64名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自分たちの住んでいる地域と比較し、地域の特性を生かした工夫や人々の努力に気付く。
- ・宿舎等での生活を通して、友達と協力し助け合いながら、自律的に生活する力を身に付ける。
- ・南魚沼の自然や文化・産業についての課題をもち、情報を収集し、課題を解決する。
- ・学習を振り返り、目的に応じてまとめたり、分かりやすく伝えたりする。
- ・自然とのふれ合いを通して、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・集団生活や地域の人々との交流を通して、人間関係を深め、豊かな人間性を育む。

○日程表

2月27日(日)		2月28日(月)		3月1日(火)	
7:30	学校集合 出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	到着 開校式	10:00	スキー体験教室	9:00	わら細工体験
12:30	昼食	11:30	昼食	11:30	昼食
14:30	雪灯籠づくり体験	13:00	スキー体験教室	13:00	閉校式
19:00	入浴	19:00	入浴 学習の記録	17:00	到着 帰校式
	学習の記録		お別れ会		解散
21:00	健康観察	21:00	健康観察		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べていきたいテーマを決めた。児童は、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくった。

2 事後の学習内容

- ・追究したい課題ごとにグループを作り、現地で学んだことに、自分たちで調べてきた内容を加えてまとめ、4年生に紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 雪灯籠づくり体験

雪灯籠づくり体験。新潟県南魚沼市という豪雪地帯だからこそできる体験学習を企画した。バケツいっぱい雪を詰めてひっくり返したものに、シャベルで穴をあけ、中にろうそくを立てる。あるいは、除雪しない場所に積もった雪の壁にシャベルで穴をあけ、そこにろうそく立てるという方法でも雪灯籠を作った。ただこれだけのものだが、どちらも東京ではできない体験である。バケツいっぱいにきれいな雪を詰めることさえ東京では



【 雪灯籠づくり体験 】

めつたにできない。南魚沼では際限なく作ることができる。それらを、並べたり重ねたりして、造形を工夫した。また、日没後、再び見に行き、雪灯籠の作り出す幻想的な景色を楽しんだ。

その他にも宿の方案内のもと、雪遊びを楽しみ、児童は南魚沼の自然を全身で感じる事ができた。自分たちの暮らす武蔵野市との大きな違いを実感することができ、また、そこに生きる人々の生活の様子を垣間見ることができた。

<社会体験活動>

1 宿の方とのお別れ会

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、日程を秋から冬に延期し、また内容や日数を大幅に変更した。当初予定していた課題別学習や織物体験などを中止し、冬季の南魚沼だからこそ行える自然や文化体験に特化したために、社会体験活動と呼べるものは実施していない。その中でも、宿の方や指導員、スキーマインストラクターの方とのかかわりでは、自分のために何かをしていただいているということを強く意識できるように指導した。周

りの人の支えがあって自分たちのセカンドスクールが、ひいては普段の生活があることに気付けるとよいと考えた。通常のセカンドスクールでは、約1週間の滞在期間の中で、宿のお父さんお母さんへの感謝の気持ちが湧き、その気持ちを伝えるための「感謝の会」を企画運営していく。しかし、今回のセカンドスクールは、滞在期間が短く、会の準備等の時間を確保することが難しかった。そのため、事前学習において、教員が宿の方が丁寧に受け入れの準備をしてくださっていることを児童に伝えるとともに、事前学習の時間を活用して、「感謝の会」の準備ができるよう授業計画を行った。



【 宿の方とのお別れ会 】

<生活・文化体験活動>

1 スキー体験教室

思うように滑ることができる児童はほんの一握りで、経験があるという程度を合わせても3割程度。7割の児童が初めてのスキー体験という実態のもとでのスキー教室であった。全体を8グループに分けての活動を行った。インストラクターの指導のもとスキー靴に板を装着する方法や、斜面の向きに対して垂直に立って装着しないと意図せず滑ってしまうということなど、基本中の基本から教わることができた。午前の部では、足をハの字にしてエッジを立ててスピードを調整する技能を身に付け、午後の部では、全員がリフトを上がったところから、初級者コースを下ってくるという課題にチャレンジした。

経験のある児童のみならず、この日が初めてのスキーである児童の多くも上手になり、多いグループでは3、4回下ってくることができた。どの児童も初心者コースを滑り下ることができた。



【 スキー体験教室 】

スキーというスポーツを通して、豪雪地帯に暮らす人々が、自然環境を大いに生かして、観光産業を発展させたり、自身の健康増進を図ったりしていることを理解することができた。

2 わら細工体験

昔の農家が日没後や農閑期に行っていた藁を使ったものづくりを体験した。自然とともに生きる農業の仕事を理解する上で欠くことができないものだと考えて、この体験学習を設定した。一輪挿しを作ったり、藁をなったりすることを通して、農家の人々が、育てた稲は米だけでなく、藁までも無駄なく活用してきたことを学ぶことができた。



【 わら細工体験 】

3 箸づくり体験

自立した集団生活を始めるにあたり、自分のことは自分で行うことが基本であるが、感染対策のために今回は配膳時などに制限がある。通常の宿泊行事と違って自分でできることも宿の方にやっていただくことになる。そこで、マイ箸づくり体験は、自分のものを自分で作って用意するという、自立の象徴として重要な意味をもつ。児童は、これからの3日間の生活に思いをはせながら、丁寧に自分の箸を作っていた。帰宅後もこの箸を使うほど愛着を示す児童もいた。



【 マイ箸づくり体験 】

○児童の感想

- ・南魚沼は吉祥寺とちがって、雪がたくさん降っていて驚いた。
- ・雪灯籠体験。数メートルある雪に大きな穴をほり、その穴にろうそくを置いて、夜に景色を楽しんだ。小さい穴にろうそくを置くとロマンチックになって、きれいだった。作るときに、穴が大きすぎではいけないし、奥が深すぎてもいけない。さらにろうそくを置くと地面を平らにしないといけない。この作業が個人的に一番難しかった。
- ・人々は自然と共存して生活していることに気が付いた。宿の二重窓も少しでも寒さを防ぐためのものだと思う。
- ・スキーは、最初は転びそうだったけど、だんだん慣れてきて爽快だったし、楽しかった。スピードがでると顔に風が当たって気持ちよかった。
- ・スキーは久しぶりで最初はうまく滑れなかったけど、だんだん滑れるようになった。リフトが急になったときは怖かった。うまく滑れるようになって、坂の上から滑るととても気持ち良かった。午前も午後も90分がとても短く感じた。また、スキーをやりたいなと感じた。
- ・大雪を生かして、スキー場を作っている。南魚沼の人は自然を生かして産業をさかんに行っている。

- ・私は初めてのスキーだったので何も分からなかったがプロの方に一から教えてもらい、初級コースをなんとか突破することができた。
- ・最初スキーは全然できなかったけど、最後の方は結構うまくできたと思う。ハの字に止まるのは難しかったけど、慣れたら楽しかった。怖かったけど、景色がきれいで、遠くを見たらとても楽しくなった。今度また家族で滑って、自慢したいと思う。
- ・わら細工にはたくさんの種類があることが分かった。高齢の先生が教えてくださった。ひもを結ぶ力がまだ強いことに驚かされた。
- ・一輪の花を飾るわら細工を作った。わらを使って模様をつけて、さらにきれいに見えるようにまっすぐにわらをつけていった。見た目通り作るのはとても時間がかかり、4割ほどわら細工の先生に手伝ってもらった。わらには上下があり、間違えて上の方をつけてしまうと弱々しく見えるし、すぐに壊れてしまうそうなので、わらの上下をよく見極めることも重要なポイントだ。大変だったけど、自分なりに満足して作品ができたと思っている。身近でこのようなことはなかなかないので、いい経験になったと思う。
- ・南魚沼市の自然や雪に触れられて良かった。宿の方に感謝の気持ちを伝えられて良かった。また、ロッジマロンに行って、みんなで泊まり、スキーをしたいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・セカンドスクールで大切にすることを生かして、友達と協力して物事に組みんだり、やり遂げたりする力を高める。
- ・南魚沼市などの豪雪地帯に生きる人々の生活の工夫や産業や文化についての各自のテーマ学習を、実感を伴った理解に結びつくものにする。
- ・自分たちが周りの人に支えられていることを実感できたことは、自分も誰かを支援しようとする態度を育てることにつながる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

延期による大幅な内容変更であったが、雪灯籠づくりやスキー体験は多くの児童にとって新鮮なもので、ファーストスクールでは経験できない学びが充実したものとなった。

感染対策を含めた集団生活は、2泊3日とはいえ多くの制限を児童に課した。しかし、それらは児童の人を思いやる気持ちや規範意識を育てることもつながり、豊かな人間性を育むというセカンドスクールの目標の一つにもつながることになり、大きな成果を感じた。

一方、感染対策は児童の学びを阻害する一因にもなった。宿での感染対策は基本的に一律のものであったが、仕方ないことではあるが、実際は宿の方の健康上等の事情から、児童と「お父さん・お母さん」との関わりの密度には宿ごとに差が生まれてしまっていた。今後も感染対策と児童の活動の充実について考えていくことが課題となるだろう。

千川小学校

新潟県南魚沼市

10月25日～10月27日(2泊3日)

参加人数 男子 27 名 女子 18 名
計 45 名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の自然や人々の生活等、課題解決に必要な知識を身に付ける。
- ・ 現地での学習を通して、課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度を養う。
- ・ 集団活動を通して、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

○日程表

10月25日(月)		10月26日(火)		10月27日(水)	
8:00	学校出発	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:30	開校式	8:30	八海山ロープウェイ	8:45	課題別学習
13:30	JAカントリエレベーター見学	10:30	後山ブナ林トレッキング	12:00	昼食
14:30	各宿着・避難訓練	12:00	昼食	13:00	閉校式
15:30	マイ箸作り	14:00	雲洞庵見学	13:30	レーホー八海発
16:30	ちまき作り	17:30	夕食	16:45	学校着
18:00	夕食				
20:00	健康観察	20:00	健康観察		
20:15	入浴	20:15	入浴		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 社会科の学習において、米作りのさかんな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。
- ・ 総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えて育て、生長を観察した。今年度は南魚沼観光協会の方に学校までお越しいただき、田植えの仕方を直接教えていただくことができた。また、稲の病気、米の種類や料理など、米に関する自分で立てた課題について調べ学習を行い、興味・関心を広げることができた。
- ・ セカンドスクールで行う体験活動と水・米・歴史文化の3つの課題について調べた。事前に、体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への関心を高め、学習を深められるようにした。

2 事後の学習内容

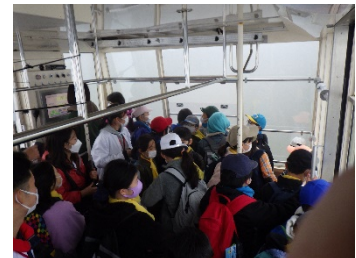
- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことをまとめて、4年生に向けたセカンドスクールの発表会を行った。自分が経験したことや事後にインターネットや本を使って深く調べたことを、実際の写真や図を使って分かりやすくプレゼンテーションソフトでまとめた。それを活用し、4年生に発表することで、これまでのセカンドスクールに関する学習のまとめをすることができた。
- ・セカンドスクールを通して学んだことや考えたことなどについて文章にまとめ、振り返りを行った。また、観光協会の方にセカンドスクール実施後に学校に来ていただき、交流を深め、感謝の気持ちを直接伝えることができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴や水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。



【八海山ロープウェイ】

2 後山ブナ林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林をガイドの方2名と散策した。武蔵野市では見たことのない植物を見つけて説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山びこを体験し、武蔵野市では味わうことのできない貴重な体験を積むことができた。



【ブナ林トレッキング】

<社会体験活動>

1 カントリーエレベーター見学

カントリーエレベーターを見学することで、収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。今年度は普段見ることができない施設内の設備も見学させていただいた。また、子どもたちの質問にも丁寧に詳しく答えていただき、事前に学習してきた内容の理解をさらに深めることができた。



【カントリーエレベーター見学】

＜生活・文化体験活動＞

1 ちまき作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際に作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。自分が作ったものを食すことで食の関心の高まりが見られた。

また、ちまき作りを通して宿の方や現地の指導員の方との交流を深めることができた。



【ちまき作り】

2 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名刹雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化財を見学することができた。



【雲洞庵見学】

＜課題別学習＞

1 水グループ(三国川ダム)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダムを見学した。また、施設の方の丁寧な説明を通して、ダムの役割について理解を深めることができた。



【三国川ダム見学】

2 米グループ(米の流通・ぬか釜体験)

JA の職員の方の説明や映像資料を通して、収穫した後の米がどのように精米されて、消費者まで届いているのかを学んだ。ぬか釜体験では、指導員の方に昔ながらの米の炊き方を教わった。炊きあがった米のおいしさにどの児童も驚いていた。



【ぬか釜体験】

3 歴史文化グループ(鈴木牧之記念館、中島屋)

江戸時代の文筆家である鈴木牧之の記念館では、雪国の生活について著した「北越雪譜」や地域の特産品である「塩沢紬」について学んだ。中島屋では、雪国の伝統的な家屋の工夫や地域の風習について教わった。



【中島屋見学】

○児童の感想

- ・八海山ロープウェイやバスの中で見た景色から武蔵野市との違いをたくさん見付けることができました。南魚沼市は、自然がとても多く周りが山で囲まれていました。また、家の造りも雪国に合った造りになっていることに驚きました。
- ・ブナ林トレッキングでは、たくさんの植物や生き物を見付けることができました。現地の方の説明を聞いて、ブナ林の役割がよく分かりました。初めて、やまびこを体験したのでとても楽しかったです。
- ・課題別学習ではお米について学びました。JAの方の説明を聞いて、南魚沼産のお米がどうしてこんなにおいしいか理由が分かりました。これからはお米を作ってくれた人に感謝して食べるようにしたいです。
- ・宿のお父さん、お母さん、3日間ありがとうございました。こんなに楽しい3日間は最初で最後だと思います。最終日にいただいた手紙を読むと、いつも泣いてしまいます。必ず、また会いに行くので待っていてください。
- ・行く前は不安だったけれど、とても楽しい2泊3日になりました。セカンドスクールを通して、協力することの大切さを学びました。また、普段はあまり話をしなかった友達と仲良くなれたのが良かったです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「南魚沼市について深く知り、けじめのある生活を送ろう」というめあてを立て、活動に取り組んだ。

家族から離れて過ごした2泊3日の集団生活は、貴重な経験として、児童一人一人の力となっている。その力を事後の活動でも引き出すため、学級・学年活動や行事等、大勢で一つの目標に向かって活動するときには、セカンドスクールでの経験を想起させることで、仲間と協力したり、励まし合ったりすることができると考える。今年度はセカンドスクールが終わった後に学習発表会があったため、一体感をもって練習に取り組み、ダンスの発表を成功させることができた。

現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方との関わりを大切にできた。このような素晴らしい経験をすることができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方の協力があったからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気

付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分で課題を見付け、それを解決していく力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

2泊3日に縮小となってしまったが、体験活動や各宿での集団生活を通して、武蔵野市では味わえない多くの貴重な経験をすることができた。11月には、観光協会の方を本校に迎え、交流会をすることができた。現地での交流だけでなく、自分たちの学校にお世話になった方が来てくださったことは、自分たちが迎える側となり、改めて感謝の気持ちを伝えるよい機会となった。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で宿の方たちは来校できなかったが、来年度は来ていただけるように早い段階から日程を調整し、実現を目指していきたい。

また、毎日の食事を通して、南魚沼の食文化や、それを支える人々の思い、自然の豊かさを十分に感じ取ることができた。食への関心が高まり、苦手な食べ物でも一口食べる姿が以前より多く見られるようになってきた。

井之頭小学校

11月9日～11月12日(3泊4日)

長野県飯山市

参加人数 男子38名 女子48名
計86名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山市について、人、もの、自然の現状やよさを理解し、関わる人々の願い、工夫、努力が分かる。
- ・情報を収集、比較・分類するなど、探究の過程に応じて情報を集めている。
- ・自分の関心から課題を設定し、探究的な見方・考え方を働かせて追究している。
- ・学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。
- ・集団生活を通じて、一人一人の良さを認め合い、協力し合うことの大切さを学ぶ。
- ・自主的な集団生活や地域の人々との交流を通じて、協力・信頼関係を深めるとともに、他の人への感謝の念を育てる。

○日程表

11月9日(火)		11月10日(水)		11月11日(木)		11月12日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	小菅の里到着昼食	10:00	飯山市内、寺町巡り	9:00	茶屋池ハイキング	7:45	荷物整理・大掃除
13:00	小菅の里散策	12:30	昼食(弁当)	12:00	昼食(各宿)	9:30	閉校式
14:30	小菅の里出発	15:00	課題別学習①	13:30	課題別学習②	10:00	戸狩出発
15:00	開校式	17:00	夕食	17:35	夕食	12:00	横川SAで昼食
16:00	里山散策 飯山についての学習	18:30	ナイトウォーク	18:15	感謝の会	14:30	学校到着
18:00	夕食	20:00	ふり返りの時間	19:00	入浴	15:00	帰校式
19:00	入浴	21:30	消灯・就寝	20:00	ふり返りの時間	15:30	解散
20:00	ふり返りの時間			21:30	消灯・就寝		
21:30	消灯・就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・飯山市の「自然、動物」「農業・暮らし」「歴史」「食文化・伝統文化」「気候・自然」などのテーマについて個人の課題を決め、本やインターネットを使って調べ学習を行った。調べた内容は学習者用コンピュータを用い、ドキュメントシートにまとめた。

- ・小菅の里周辺についてインターネットで調べ、どのような経路で散策をするかリーフレットにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・学んだことや伝えたいことをテーマごとにスライドにまとめ、4年生に向けて紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 茶屋池周遊ハイキング

各宿のお父さん方をガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。

ハイキングの途中、ブナに触れたり、実を拾ったり、ブナの木の実の音を聞いたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの木の特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。森にいる生き物、生息しているきのこ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、生き物や人間と自然がどのように関わっているのか実感することができた。



【茶屋池周遊ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 課題別学習2

課題別学習2では、児童へ伝えたいことをテーマにして宿のお父さんお母さんに活動内容を考えていただき、課題別学習を実施した。「焚き火体験」、「わら細工づくり」、「伝統の泥団子作り」「まごの手工工作」、「竹の箸作り」、「まがたま作り」というテーマはどれも魅力的で、児童の関心を高めることができた。

各宿で農具など見たことのない道具を使い様々な体験を行った。宿のお父さんお母さんの話をよく聞き、一生懸命に作業に取り組む様子が見られた。

宿のお父さんお母さんの仕事を体験することを通じて「何かひとつ作るのもこんなに大変だななんて思わなかった」「こんなに大変な仕事を毎日続けているお父さんお母さんはすごい」「野菜を残さず食べるようにしよう」など、働くことの大変さや働く人の想いを学ぶことができた。



【わら集めの様子】



【焚き火体験の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 小菅の里周辺散策

事前学習で小菅の里周辺について調べてまとめ、児童が決めたルートで散策をした。多くの神社や北竜湖に向けて班の児童と協力しながら歩き、坂が多いことや険しい道があることなど、地形が武蔵野市とは異なっていることを学んだ。また、神社や門など小菅の里に残る歴史的建造物を間近で見ること、里の文化について学びながら歩いた。児童は、事前に調べていたものとは異なったルートになったり、湖や神社が思っていたよりも大きいことに驚いたりしながらも、グループで協力して行動することができた。



【北竜湖付近の様子】

2 里山散策、飯山についての学習

学習の講師を宿のお父さんお母さんにお願いした。これまで使われてきた蓑（みの）、わらぐつ、観光業としても重要なスキーの歴史、地域で受け継がれてきた伝統芸能、雪が落ちやすくなるための急勾配の屋根など、飯山での人々の暮らし、生活の知恵や工夫を学ぶことができた。児童は、生活している方からお話を聞いて道具の実物を見たことにより、理解を深めることができた。

3 飯山市内、寺町めぐり

全児童が飯山の伝統文化について学習するために、寺町巡りと飯山城址と飯山シャンツェ見学を3つのグループでローテーションをして見学を行った。戸狩野沢温泉駅から飯山市内への電車移動の際には、東京とは違うディーゼル車や単線での運行であることに驚いていた。飯山市中心部では全児童が徒歩で移動することにより、地域の特徴や地理的状况を知りつつ、地域の飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。



【正受庵見学の様子】

4 課題別学習1

飯山市について知りたいことを、「動物」、「自然・植物」、「歴史」、「農業・暮らし」、「伝統文化・食文化」のテーマに分け事前学習を行い、各宿のお父さんお母さんに活動内容を考えていただき、課題別学習を実施した。

学習内容について事前に調べておくことで、主体的に学習に取り組むことができた。現地の方の話を聞いたり、実物に触れたり見たりすることで、事前学習では分からなかった、自然の豊かさや暮らしの工夫など、学びをより深めることができた。

○児童の感想

- ・山の中の紅葉した木々や澄んでいて美味しい空気など初めて見るものばかりで、昔の人が自然を歌った気持ちがよくわかった。
- ・セカンドスクールでは自然の大切さだけでなく、セカンドスクールを支えてくれた人たちの思いも学んだ。色々なことに感謝する大人になりたい。
- ・集団生活をするを通して、自分では当たり前だと思っていることでも他の人は違うということを学んだ。
- ・ブナの木の名前しか知らなかったが、ブナの木の実を食べられるということや水を吸う役割があることを学んだ。
- ・集団生活を通して、お父さん、お母さん、指導員の先生、友達などいろいろな人に支えられているのだという事に気が付き、感謝することへの大切さを感じた。
- ・ナイトウォークで、飯山は東京よりも明かりが少なく星がきれいに見えた。
- ・都会では味わうことができない自然にたくさん触れることができ、お父さんやお母さんの話を聞いてさらに自然や野菜を大切にしていかなければならないと思った。
- ・1日目は自分勝手な行動をしてしまったが、集団生活を通して友達に声掛けをするなど、チームワークがとても良くなった。
- ・次に何をするのか考えて行動するようになった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の話をつなぐ交ぜ、関連付けながら指導することができた。
- ・セカンドスクールから帰ってきた後、次に何をすべきかを考え行動する児童の姿が多く見られるようになった。
- ・様々な場面において協力する姿がより多く見られるようになった。授業での話し合いや、セカンドスクールの事後学習の発表準備では、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動していた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・小菅の里散策を今年度初めて実施した。知らない場所について事前に学習し、実際に散策することで、児童がその土地のことを主体的に学ぼうという意欲が高まった。
- ・「里山散策」を1日目の開校式後、すぐに実施した。現地の景色や空気を味わい、宿のお父さんお母さんに出会ってすぐに学んだことで、児童の関心が非常に高まった。また、その後の活動の際に、初日の学習と結び付けながら取り組み、理解を深めている姿が見られた。
- ・飯山オリエンテーリングでは、今年度から電車の移動にしたことで、徒歩での移動時間が大幅に増加した。待機時間などが最小限に抑えられ、限られた時間の中で学習を行うことができた。
- ・飯山オリエンテーリングは移動距離、時間が長かった。泊数が増えてきた場合は移動方法の見直し等が必要である。

桜野小学校

長野県飯山市

11月12日～11月14日(2泊3日)

参加人数 男子86名 女子80名
計166名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・生活上の自立に必要な知識・技能を身に付けること。
- ・飯山市と武蔵野市を比べて違いに気付くこと。
- ・米作りの努力や工夫について知ること。
- ・自ら課題を設定すること。
- ・学習の場を移し、体験を通して、課題に対する情報を集め、整理・分析してまとめる力を育むこと。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めること。
- ・探究的な学習に取り組もうとすること。

○日程表

11月12日(金)		11月13日(土)		11月14日(日)	
7:40	バス乗車・出発	6:00	起床	6:00	起床
11:00	戸狩到着、開校式	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	昼食	8:30	伝統産業館	9:00	宿の方へのお礼
13:00	部屋割り		ふるさと館見学(1・2・3組)	9:30	戸狩出発・閉校式
13:30	焼き板工作(1・2・3組)	8:30	焼き板工作(4・5組)	12:00	昼食
14:00	伝統産業館	12:30	昼食	15:30	学校着・帰校式
	ふるさと館見学(4・5組)	13:30	宿ごと自然体験		
18:00	夕食	17:30	夕食		
19:00	入浴	18:30	星空観察		
20:00	語らいの時間	19:00	入浴		
21:30	就寝	20:00	語らいの時間		
		21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、稲作についての学習を行った。バケツを使って田植えをし、稲穂が実るまでの様子を学校で継続的に観察した。
- ・1学期の社会科の授業で行った「寒い土地の暮らし」の学習において、降雪量の多い地域で

の暮らしにふれ、現地に行った時の学習への意識付けを図った。また、「米作りのさかんな地域」の学習では、稲作の仕事内容や、米が手元に運ばれてくるまでの流れについて学習し、日本の食料生産の抱える問題やこれからの農業について考えを巡らせた。また、テレビ会議システムを活用して、お米についての話を宿泊先の方から伺った。

- ・2学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単位では、長野県飯山市についての事前学習を行った。書籍等を用いて、飯山市の概要を学んだうえで、「米・雪・人」のテーマの中から、児童一人一人が、学習課題を設定した。
- ・設定したテーマについて、飯山市と武蔵野市を比較しながら調べ、学習者用コンピュータやノートを活用してまとめた。
- ・セカンドスクールの目的や活動内容を、パワーポイントを使用して児童に紹介した。また、宿舎内で係を決め、係ごとにめあてを決めたり、仕事内容の確認をしたりした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことや訪問先の特徴をスライドや紙芝居、ポスター、劇等でまとめ、下学年に向けて発信した。
- ・お世話になった宿へは色紙を、指導員へは手紙を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 宿ごと自然体験

飯山の自然を満喫するため、宿ごとで工夫を凝らした活動を行った。冬季にはゲレンデとして活用されている道を歩き、山の上まで向かう「とんだいらハイキング」や、畑の農作物を収穫する「農業体験」、飯山の豊かな水の水源となっている森を散策する「ブナの森ハイキング」などである。自然をテーマとしていた児童はもちろんのこと、そうでない児童も、東京では味わえない山の豊かさや紅葉の美しさ、農業の大変さ食材のありがたみなどを感じることができた。また、宿ごとでの活動であったため、友達同士で協力したり、指導員、宿の方と打ち解けたりすることに適切な活動であった。



【宿ごと自然体験の様子】

2 星空観察

武蔵野市では体験できない真っ暗な道を歩きながら、星空を観察する体験を行った。街灯や車の明かりがない道を歩くことで、暗闇の怖さや明かりのありがたみを感じることができた。また、武蔵野市にはない、本の字が読めるほどの月の明るさや満点の星空の美しさを実感することができた。自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。

＜社会体験活動＞

1 分宿による仲間づくり

普段は168人で生活している桜野小学校の5年生だが、分宿により1宿10人程度で生活した。充実した生活を送るために、児童一人一人が班長、生活、保健等それぞれの役割に自覚をもつことができた。また、本部宿とテレビ会議システムを活用して連絡を取っていたことや、実施後に宿ごとに色紙を送ることなどもよりよい人間関係を築くうえで大切な活動となった。

2 語らいの時間

20時から宿の方と話をする時間を設けた。自分の学習テーマや活動で気になったことを質問して学ぶ事ができた。また2日目には感謝の気持ちを述べる時間も設定し、宿の方に直接感謝の気持ちを伝えることができた。



【語らいの時間の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 伝統産業館・ふるさと館見学

伝統産業館では、飯山の伝統産業である仏壇、漆器、和紙について見学した。雪の多い地方であることや、採れる植物などが関わって産業となっていることを、学芸員の方の説明を通して理解した。また、実物を見ることで大きさや値段に驚いている児童もいた。飯山の職人の技術の高さや苦労についても感じる事ができた。

ふるさと館では、飯山の生活について展示物を手に取りながら学習した。昔の部屋のつくりや、遊ぶ道具、黒電話、草履など、多くの展示物に触れることで、実感を伴って理解することができた。飯山の自然について、木の実や木の幹を触ったり、ワークシートに学んだことをメモしたりしながら学ぶことができた。飯山のお祭り、娯楽、学校の備品等多くの物が置いてあり、児童が設定した課題について調べることができた。



【伝統産業館見学の様子】

○児童の感想

- ・様々な人に支えられて普段の生活が成り立っていることが分かり、いつもの生活を「当たり前」と思わず感謝して生活しようと思いました。
- ・飯山に行けたのは宿のお父さんお母さんのおかげです。本当に感謝しかありません。
- ・友達と親がいない中で過ごす行事をあまり体験しなかったので、コロナ禍でも体験できてよかったと思います。
- ・セカンドスクールの3日間では友達の違う一面を知ることができたり、協力し助け合うことでいろいろな発見がたくさんあったり、短い間でもとても楽しく過ごせました。

- ・宿ごと自然体験ではとんだいらに登りました。飯山の景色は改めて山が多く、きれいだと感じました。
- ・セカンドスクールを通して、前よりも自分の生活を見直すことができました。朝早く起きたり、自分で準備をしたりすることが家ではあまりできなかったのも、とてもいい経験ができました。次、飯山に行くときは、まだ稲を刈り取っていない9月くらいに行きたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

児童は体験を通して生産者の苦労や思いについて学び、食に関する意識が高まったことが感じられる。セカンドスクール後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では、農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めることができた。学習課題について、自分の体験と合わせて考えようとする姿が見られ、実感を伴う学習活動の重要性を感じた。

身の回りの整理整頓を始め、家族や教師を頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、宿の方や指導員の先生、友達にお世話になることで、自分のことは自分でできる限りやってみようとする姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気づき、感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

セカンドスクールを通して、人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようとしたり、助け合おうとしたりする姿が多く見られるようになった。4年生にセカンドスクールのことを伝える活動では、下学年に対する関わり方や、分かりやすい発表の仕方などを意識して、児童一人一人が主体的に学習を進めることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、9月から11月に日程を変更した。6泊7日から2泊3日になったことで、活動を精選する必要があった。児童が設定した学習課題にできるだけ寄り添うことができるよう日程を組んだことで、充実した学習活動が実施できた。
- ・来年度に向け、今一度担当教員と宿の方で児童に育みたい資質・能力や飯山ならではの貴重な活動について話し合う時間を設けていきたい。その際、児童が課題解決にじっくり取り組むことができるよう、活動を詰め込みすぎず時間に余裕をもたせるよう留意する。
- ・今年度はコロナ対応と児童数増により、密を避けるために、クラスごとに活動を入れ替えながら実施した。(1・2・3組焼き板→施設見学。4・5組は逆)人数が減ったことにより、施設での見学に余裕が出て、時間内に十分な見学ができた。人数制限によって今年度実施できなかった和紙すき体験は、次年度復活させたい体験である。
- ・昨年度の学習テーマは「米・水・人」であった。今年度から「雪」を加え、「米・雪・人」をテーマに学習を進めた。テーマに「雪」を加えたことで、飯山は雪国であるということを軸に学習を進めることができた。
- ・日程の短縮により、児童の活動数は減ることとなったが、児童一人一人が課題意識を持ち、学習を進めることができた。

- ・児童は1学期と比べ、他者のことを考える力が付いた。また、今回セカンドスクールを実施できたことや、普段の生活が成り立っていることに感謝する気持ちが芽生えた。



【宿ごと自然体験の様子】



【焼き板体験の様子】



【閉校式の様子】

中学校セカンドスクール



第一中学校

10月25日

東京都青梅市

参加人数 男子69名 女子41名
計110名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・教科の枠にとらわれず、自然体験的な活動や自然のふれあいを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めるとともにセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。
- ・学年・学級の親睦を図るとともに、集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身に付ける。
- ・自然や文化の特性を生かした学習の場を多様に設け、体験に裏付けられた生きた学力を身に付ける。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、自分たちの暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身に付ける。

○日程表

10月25日（月）	
8:20	学校集合、班チェック
8:30	出発（一中） クラスごと一列で移動
8:45	三鷹駅到着
9:07	三鷹駅発
10:25	御嶽駅着
10:35	登山開始
12:35	御嶽神社到着（昼食・長尾平）
13:15	下山開始
15:15	御嶽駅到着
15:40	御嶽駅出発
16:47	三鷹駅着（解散）

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・夏休みの課題として、当初行く予定だった長野県白馬村に関する調べ学習（白馬村の歴史や自然に関すること、長野オリンピック・パラリンピックに関すること、黒部ダムのことなど各自調べたいテーマを決めて、B4サイズのレポートを作成し、各クラスで掲示、発表）を行い、長野県全般についての理解を深めた。しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点から、長野県で実施予定だったセカンドスクールが中止となった。宿泊はできなかったが、宿泊予定だった宿の方に自己紹介カードを送り、交流を深めた。
- ・セカンドスクールの代替学習として、当初予定していた八方尾根トレッキングに替わり、東京都青梅市にある御岳山登山を実施することにした。事前学習として、長野県にある自然と東京都にある自然について比較し、再度調べ学習を行い、発表をした。
- ・実地踏査の際に撮影した画像を事前に紹介し、個々に登山をするにあたっての目標などを設定した。
- ・セカンドスクール実行委員会で決まりやスローガンなどについて話し合った。
- ・行動班内での係を決め、その係の仕事に責任をもって取り組めるように係会議を設定し、その中で様々な係の仕事を話し合って決めた。

2 事後の学習内容

- ・登山をした感想文を書き、それを共有した。各自が今回の登山を振り返り、今後に生かせるように意識をもたせた。
- ・セカンドスクールで感じ取った東京都の自然から、環境問題等、社会的な視点をもって取り組み、課題の提示と自分たちなりの解決方法を模索し、どのようにそうした問題に関わっていけるか考えさせた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 御岳山登山

御岳山登山を体験することで、東京都にある雄大な自然を実感し、再発見することができた。また自然のよさや大切さを学ぶこともできた。頂上での雨や、急な勾配で気持ちが滅入る仲間に対して、お互いを気遣う言葉掛けを行い、協力し合うことの重要性を学年全体が学ぶことができた。電車内でのマナーだけでなく、登山中にあいさつを交わすなど、社会におけるマナーも学ぶことができた。



【御岳山登山】

○生徒の感想

- ・登山をするにあたって、目標を二つたてました。一つ目は、自然にふれあうことを楽しむことです。最近自然とふれあうことができていなかったからです。今回は、自然とふれあうことができるチャンスだと思い、「自然」を目標にしました。二つ目は、他人に迷惑をかけないことです。小学校の時に、電車内で騒いでしまったことがあったので、今回はそのリベンジがしたかったので、迷惑をかけないことを目標にしました。実際に、この二つの目標とも達成することができました。草木を注意深く観察したり、かたつむりやミミズなどの生き物も見つけることができました。山に登るときは、登るのだけに集中し、あまり自然にふれあうことはできませんでしたが、山頂や下山の途中では、自然とふれあうことができ、非日常を感じることができました。電車の中でもマナーを守り、静かに過ごし、狭い道では一列になる、班員が遅れていたら待つなど、相手の気持ちを考えた行動ができました。目標をたて、その目標を意識して達成しようとしたことで、校外学習が充実しました。この校外学習では、目標をたて、その目標を達成しようとすることで、物事がよりよい方向に向かっていくことを学べました。
- ・今回の校外学習で学んだ事は、山登りの大変さと人の優しさです。山登りの大変さは、思ったより山登りが辛かったと言うことです。校外学習に出発する前に、先生が事前学習で御岳山の写真を見せてくれて、その写真では御岳山のあんなことやこんなことが起きるなんて思いもしませんでした。いざ出発してみると、最初は意外と余裕でしたが、その後は急な坂になって大変疲れました。つらい時にお互いに声を掛け合い、励まし合いながら、何とか頂上まで登ることができました。この校外学習で僕は山登りの大切さ、人の優しさを学べました。
- ・何のために歩いているの、そう思ったのは御嶽駅から歩いて、しばらく経ってからでした。私はもともと体力が無く、長時間歩いたり走ったりすることが苦手でした。登山をすると知った時、私は頂上まで行ける自信がありませんでした。過去に登山をして、つらかった思い出のせいか、その時から私は山と言ったら、つらい、つかれた、もう登りたくない、という考えしかありませんでした。今回も初めはそのような気持ちで登山しました。御嶽駅から歩き、御岳山の入口に着いた時にはもう限界でしたが、絶対に途中で下山したくはなかったので歩き始めました。私の班はみんな優しく、班員のことを考えてくれる人たちばかりでした。誰か一人が遅れたら、その人を待っていてくれて、誰かが走ったらそれについて来てくれる。誰かがつかれたら止まって休憩してくれる。この時、私は山に登る理由、また、何のために歩くのか分かった気がしました。そして、校外学習に御岳山が選ばれた理由も。最初は登りたくなかった気持ちも、しだいに変わり楽しくなってきました。みんなで歩きながら、あと半分…あと少し…頂上が見えた、のように班員全員で最後まで登りきることができました。この時の達成感は今まで味わったことの無いものでした。今回の校外学習を行い、友達の大切さ、登山する意味など、本当にたくさんのことを学ぶことができました。御岳山で学んだことを絶対に忘れないようにしたいです。そして、これからの生活に生かしていきたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、行事などが従来のように実施することが難しいため、生徒たちが行事などを通して経験し、成長する機会が少なくなっている。本来なら4泊5日の宿泊を伴うセカンドスクールの中で、普段の学校生活では接する機会が少ない仲間たちと触れ合い、新しい発見や学びを通して成長することを期待していた。日帰りの御岳山登山ではあったが、長野県でのセカンドスクールで期待していたもの同様の成果があった。仲間の体調を気遣ったり、お互いに長所を認め合ったりする様子も多く見られた。自主性が学習面だけではなく、生活面でも垣間見られたことも非常に良かった点である。

今後の学習においても、セカンドスクールで得た協働の姿勢を生かしていけるように指導したい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

途中で雨に降られたものの、無事に御岳山登山を行うことができた。生徒たちも教員も、東京都の山の登山はそんなにきつくない、簡単に登ることができるであろう、という感覚で登山に臨んだが、実際は非常に勾配もきつく、楽しいだけでない苦しい登山でもあった。生徒の感想にもあるように、多くの生徒に変容が見られた。東京都の自然の素晴らしさ、厳しさを実感できた。また、友達との関わり、自分に与えられた仕事への責任感、そしてリーダーとしての素養を育てていくという面で生徒にとってはよい機会であり、自主性や自立心、自律の心を育てることができたと考える。

第二中学校

東京都八王子市

11月2日(日帰り)

参加人数 男子 60名 女子 62名
計122名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・環境オリエンテーリングやものづくり体験を通して、持続可能な社会を作るための知識を学び、自然と共生していく姿勢を養う。
- ・わくわくビレッジの高校の校舎の再利用、自然に恵まれた地域の特色を生かした施設づくり、施設内のバリアフリーやユニバーサルデザインなど、3Rやダイバーシティの考えを生かした施設づくりの知識を深める。
- ・武蔵野市との共通点・相違点に気づき、地域の活性化に参画しようとする態度を育成する。
- ・事前・事後学習の発表を通して、思考力・判断力・表現力を養うとともに、自分で考えて行動できる力を育てる。
- ・現地での活動を通して、感謝の気持ちを相手に伝える態度を身に付けるとともに、コミュニケーションの大切さを理解する。
- ・仲間と共に係活動や集団活動に積極的に取り組み、よりよい学年・学級を作る。

○日程表

11月2日(火)			
8:00	登校	13:00	体験学習
8:15	バス乗車		AB組 エコバッグづくり
8:20	出発		CD組 環境オリエンテーリング (自然・エコ)
9:40	わくわくビレッジ到着	14:55	閉校式
9:45	開校式	15:00	バス乗車
10:00	体験学習	15:10	わくわくビレッジ出発
	AB組 環境オリエンテーリング (自然・エコ)		バス内学活、
	CD組 エコバッグづくり	16:20	学校付近到着、解散
12:00	昼食		
12:30	レクリエーション		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・身近なところからできる環境に配慮した行動を考え、発表し合うことでSDGsに参画しようとする態度を育成した（総合的な学習の時間）。
- ・班の中で学校の施設を再利用する案を考えた。その概要を自ら企画しまとめることで、SDGsに関心をもたせると同時に、わくわくビレッジに対する動機付けを行った。また、これらの過程を通して、生徒が集団で協力し合いながら物事を作り上げていく姿勢を養った（総合的な学習の時間）。
- ・活動中の人との出会いや集団行動を通して、温かい信頼関係の大切さを学んだ。（道徳）
- ・中学生としての自覚や自律をめざして、団体行動や係活動、体験学習の場での目標やルール作りを行った。（特別活動）

2 事後の学習内容

- ・振り返りアンケートを行い、事前に立てた目標やルールを守れたか確認した（総合的な学習の時間）。
- ・わくわくビレッジの中で、学校の施設を有効に再利用出来ている部分やバリアフリーに配慮している部分をまとめ、それを生かして「武蔵野市にある施設を再利用して作りたい施設」の企画案を個人で作らせ、発表した（総合的な学習の時間）。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 環境オリエンテーリング(自然)

環境オリエンテーリングとは、施設の敷地内に散りばめられたマークを探し、見つけられた班は自然に関するクイズを解くことができるというものである。クイズの内容には「栗のとげは何のためにあるか」というようなものがある。この「自然」の環境オリエンテーリングでは、わくわくビレッジの庭の中にあるマークを班員で協力しながら見付け、クイズも共に知恵を出し合いながら考えるため、自然の知識を蓄えながら協力することの大切さを学ぶことができる。また、庭には様々な植物が生息しているため自然そのもとと触れ合うこともできる。



【マークを探している様子】

<社会体験活動>

1 環境オリエンテーリング(エコ)

上述の環境オリエンテーリングの「エコ」に関するクイズを解くものである。クイズの内容には「環境にやさしい製品やサービスについているマークは何か」というようなものがある。「エコ」に関する知識や、班員で協力する点などは「自然」と同様であるが、マークが建物の中にあるこ

とが大きな違いであり、そのことによって「学校の校舎を有効に使えている部分」や「バリアフリーに配慮した部分」などがオリエンテーリングを通して分かるようになっている。



【マークを探している様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 エコバッグ作り

東京都の企業が開発した環境に配慮した染料を用いたエコバック作りを通して、伝統的な染色技術を体験するとともに、企業のSDGs活動の実例を学んだ。配色を決め、自分で絞り染めをする体験をすることができた。班で座って教え合いながら進めていたので共働の精神を養うことができた。



【染色している様子】

○生徒の感想

- ・体験学習の中で印象に残っているのは、環境オリエンテーリングだ。事前学習の話し合いなどで、私の班はあまりまとまっておらず不安だった。しかし、オリエンテーリングが始まると、最初はバラバラな行動をしていたが、だんだん班の中で協力してチェックポイントを回り、話し合ってクイズを解くことができるようになった。この体験学習で班員と、より打ち解け、協力することができた。それを活かして事後学習を進めていきたい。
- ・校外学習に行く前は、本当にうまくいくのか不安がありました。でも今考えてみると、環境オリエンテーリングやエコバッグづくりなどでよく楽しめたと思います。特にエコバッグづくりは初めての経験というだけあり、作り上げるまでの作業が面白かったです。わくわくビレッジは今回、まだ見られていないところもあるので、もしまた来るのなら音楽室などでドラムをたたいてみたいです。
- ・SDGsの「住み続けられるまちづくりを」と「陸の豊かさを守ろう」という目標に当てはまっている部分が多く見られた。バリアフリーがしっかりしていて、点字ブロックや車いすなどがあり、年配の方から小さい子どもまで広い年代が楽しめる施設だった。武蔵野市では、蛙などの生き物はあまりいないので、蛙一匹で盛り上げられることを知った。ここで学んだことをこれからも活かしていきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

中学校に入学してから、一日を校外で過ごすという経験を初めて行った。コロナ禍で団体行動がなかなかできない状況ではあったが、自然の中でのオリエンテーリングやものづくり体験を通して、班員と協力することの大切さを学べた。

また、わくわくビレッジの特性を活かしてSDGsにつなげることができた。17の目標の中

に「住み続けられるまちづくりを」という項目があり、その観点から施設を見ることで今までにないものの見方を得ることができた。この視点から自分たちの町を見ることで、持続可能なまちづくりの方法を考える一歩となった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

セカンドスクールの2度に渡る予定変更から、急遽決まった代替学習であったが、その中でも適切な場所・プログラム・事前学習・事後学習を行うことができた。

また、学級委員を中心に、当日の目的やルールを作成したり、レクリエーションを考えたりと自らで企画・運営をすることの大切さ、困難さを学ばせることができるよう指導した。

従来のセカンドスクールとは違った形になったものの、生徒は一日校外で行動することでかけがえのない経験ができたようであった。代替学習として行くことは異例であったものの、他の学校の校外学習の例を参考にしながら計画を立てていったので、こうした学校間の協力が欠かせないと感じた。

第三中学校

長野県北安曇野郡白馬村

12月10日

参加人数 男子46名 女子47名
計93名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・工芸品の製作を通して、自然と触れ合い、自然の恩恵を受けるためには、自然の豊かさを守る活動が大切であることを学ぶ。
- ・工芸品を完成させる活動の中で、知的好奇心や探求心や根気強さを身に付ける。
- ・工芸品の製作を通して、現地の方と交流して、他者と関わる力や協調性を育てる。
- ・お世話になったスタッフの方への感謝の気持ちを、礼節をわきまえて表現する。

○日程表

12月10日（金）	
12:00	（講師到着 体育館準備）
13:30	始めの会 農家民宿の方の紹介 籐細工 作り方の説明 籐細工作り・インタビュー交流
15:10	終わりの会 宿の方より講評
15:30	終了して片づけ

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・宿泊する予定の農家民宿に自己紹介カードを作成して送った。セカンドスクールの中止が決まったので、ポスターと手紙でその返事もらった。稲刈りをする予定だった水田のお米を送ってもらう交流もした。
- ・セカンドスクールの代替学習として、現地で行う予定だったものづくり体験を、本校体育館で「ものづくり交流会」として籐細工を行うことにした。
- ・プリント学習で、自然を守る活動の必要性を、以下の①～③のつながりで確認して、家庭や個人でできる温室効果ガスを抑制、持続可能な資源の利用について考えた。また、講師の方が関心をもっている自然の豊かさを守る活動を、生徒が予想した。
 - ① 籐細工の材料は、自然由来のものである。
 - ② 人間は、生きていくために自然環境から、食料や材料を得ている。
 - ③ 自然環境からこうした恩恵を受け続けるには、自然を守る活動をする必要がある。

- ・ものづくり交流会で講師の方との交流を深めるために、事前に生徒から質問を募集した。

2 事後の学習内容

- ・完成させた籐細工の作品に感想をつけて、くぬぎ祭（文化祭）で展示発表した。
- ・ものづくり交流会の講師である農家民宿の方にした質問に対する回答から考えたことをプリントにまとめた。

○特色ある学習内容

<生活・文化体験活動>

1 ものづくり交流会

材料と編み始めは全員同じであるが、それを何に仕上げるかは、それぞれであり、自由度が高い。講師の方の説明を聞いたり、持参してもらった見本を参考にしたり、生徒同士で教え合ったりしながら、平皿、かご、お菓子入れ、果物入れなどにした。大と小、円と楕円、間を詰めたものと飛ばしたものの、縁を花型にしたものと結んだもの等も決めるので、知的好奇心や探究心をくすぐるには十分であった。

時間内でできなかった生徒については、日を変えて放課後に作業した。根気強く意欲的に取り組み、ほとんどの生徒が完成させた。

農家民宿の方が、今回の籐細工の講師であり、事前にポスターやお手紙をもらったり、収穫したお米を送ってもらったりしていた。当日は、籐細工の作り方を習ったが、話しやすい雰囲気の中、盛んに声をかけたり質問したりしていた。

ものづくり交流会の最後には、代表生徒が、感謝の気持ちを述べて、和やかな雰囲気では終了した。

インタビュー交流は、当日、籐細工だけで時間一杯になったため、事後に講師の方に質問に対する回答を寄せてもらい、それを読んで生徒が考えたことをまとめた。



【籐細工 作り方指導】



【籐細工 作品制作】

○生徒の感想

<籐細工の感想>

- ・籐細工をする体験をして、一つの物を作るのに、多くの時間と労力を費やすのだと知った。でも、大変だからこそ、達成感や物を大切にしようとする気持ちが大きくなるのだと思う。

- ・基本は単純な作業だけれども、少しの工夫で全然違うものになって面白かった。不器用だけれども楽しくできた。
- ・形を作りながら支えて編んでいくのが難しかった。水で濡らすと柔らかく編みやすくなり、水が乾いた状態だと編みにくくなるのが、不思議だと思った。
- ・やっていくうちにテンポよく編めるようになっていって、楽しかった。コツを見つけられたときのうれしさと、完成したときの達成感を感じられた。やはり、やり続けないとコツはつかめないと思った。
- ・形を曲げるのに苦戦した。周りの友達や講師の方が丁寧に教えてくれたおかげで作り上げることができた。
- ・自分でどんなものを作るのかによって、たくさん工夫ができるので、楽しかった。今回作ったものを大事に使っていきたいと思う。

＜農家民宿の方にした質問に対する回答から考えたこと＞

- ・長野県白馬村はとても素敵な場所だと思った。アルプスの雄大な景観や標高 700m から見る景色、講師の方々が誇る米や農作業について、もっと知りたいと思った。
- ・3000m 級の山々は田舎ならではの特徵で、都会はスカイツリーや高いビルが特徴で、田舎と都会にはそれぞれ良い場所がたくさんあることが分かった。
- ・自分の作る作物や白馬のことが本当に大好きで誇りに思っているのだと強く感じた。
- ・講師の方々が白馬村や自家製の農作物、民宿に誇りややりがいを感じていることが伝わった。
- ・東京の便利さや快適さなどとは違った良さが、白馬村にあることも改めて知ることができた。
- ・白馬村の良さの雄大な景色と自然を守るために、白馬村が活動して中高生も関心をもっていることがわかった。今もきれいなままの白馬村が残っていると思うと、すごいと思った。
- ・白馬村は、東京に比べ、自然の豊かさを守る活動が非常に盛んなことが分かった。白馬村に負けないように、自然を守っていききたい。
- ・お米はいろいろな食べ方ができるけれど、その中でも一番が「普通に炊いたご飯」や「おにぎり」なのが意外だと思った。
- ・普段米を食べるとき、あまり米だけで食べることがないので、炊き立ての米をそのまま食べたり、おにぎりにしたりして味わいたいと思った。農家の方が愛情を込めて作っているものを感謝しながら食べていきたい。
- ・農家になるためには、愛情と根気が必要という回答があった。農家になるときだけでなく、どの仕事でも愛情と根気が必要になると思った。
- ・農業は思った通り大変なのだとあらためて感じた。災害や台風から作物を守って下さる方々を思って、食べ物を大切にしようと思う。
- ・自然の雄大なところに住むと、季節の移り変わりや作物が育っていく様子などに癒されることが素敵だなと思ったが、長雨や小雨、大風、高温や低温などの天候と人々の努力は隣り合わせで、自然を守っていくことは大変なことなのだと思う。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・ものづくりでは、多くの時間と労力と工夫が必要である。そのことから、ものを大切にする気持ちを持って生活する。
- ・わからないことは、一人で考え込まないで、周りの人と協力することで解決できることが多い。普段の生活の中でこれを実践していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

＜今年度の成果＞

- ・籐細工と講師の方への質問を組み合わせることで、白馬村には宿泊できなかったけれども、数多くの違った角度での交流を実現させることができた。生徒の感想にあるように、興味や関心を高めて、学びに広がりをもたせることができたので、実施して良かった。
- ・籐細工は、思った以上に形や編み方の自由度が高く、工夫しがいのある題材であることが分かった。工夫で知的好奇心や探究心をくすぐられて、楽しく取り組めた生徒が多かった。
- ・編み方のコツを講師に聞いたり、周りの生徒と教え合ったりして、コツを習得し、楽しく根気強く作業して、完成させることができた。

＜次年度に向けての課題＞

- ・籐細工は思った以上に時間がかかる。製作時間を4時間と見積もるか、製作物を簡単にする。
- ・籐細工を体育館で行うときは、床が水浸しにならないようにする。ひと班20人なら4m×4m位のビニールシートを用意する。

第四中学校

群馬県みなかみ町

11月30日

参加人数 男子80名 女子61名
計141名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・通常の学習で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用し、課題発見能力や問題解決能力を高める。
- ・体験的学習により、郷土の文化に対する理解を深める。
- ・長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自立性を育む。
- ・自然・環境問題に関心をもち、SDGsを意識し自然との共存を考える力を養う。
- ・自然や農業に関わる体験活動を通じ、「水」をテーマに自然との共生や畏敬の念を涵養する。
- ・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、共存の精神や自他共に大切にすることを養う。

○日程表

11月30日（火）			
6:45	市役所駐車場集合	14:20	体験終了
7:00	市役所駐車場発	14:30	月夜野びーどろパーク発
8:40	赤城高原SAトイレ休憩	15:40	赤城高原SAトイレ休憩
10:00	奈良俣ダム着（1・2組）	16:45	市役所駐車場着
	藤原ダム着（3・4組）	16:50	解散式
10:20	各ダム発	16:55	解散
10:40	ダム着（入れ替え）		
11:00	各ダム発		
12:30	月夜野びーどろパーク着		
	昼食		
13:00	体験開始		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・武蔵野市民科を関連付けながら、武蔵野市とみなかみ町の文化や産業の比較をし、相違点について新聞にまとめた。また、その新聞を使って口頭発表と掲示発表をした。
- ・SDGsの視点から、水資源の大切さについて学んだ。
- ・水圧やエネルギー、発電方法等の視点からダムの構造について学習し、また水の利用やダムの開発についてその価値を学んだ。

2 事後の学習内容

- ・実際に利根川水系のダムを見学したことで、ダムの自然界に対する影響や、ダムの管理の大変さや難しさについて、改めて考えさせ学習成果をまとめた。

○特色ある学習内容

<自然・文化観察活動>

1 ダムの見学

前日までの大雪のため、ダムを下から見学することになるかと思われていたが、当日は晴天で、ダムの上まで行くことができた。しかし、2か所のダムの資料館は、どちらも休館であり、またダムの正面までは行けず、脇での見学ではあったが、生徒たちは想像以上の大きさと迫力に驚いていた。ダムを取り巻く環境の過酷さや管理の大変さ、またここから東京へ電力や水が送られることについて理解を深めた。



【奈良俣ダム見学】



【藤原ダム見学】

<生活・文化体験活動>

1 月夜野びーどろパークでの「サンドブラスト」「絵付け」体験

群馬県の伝統工芸の一つであるガラス細工について、簡単な体験活動を通して触れることができた。月夜野びーどろパークでは、サンドブラスト体験として、無地のガラスコップに様々なイラストが描かれたシールを張り付け、その周囲に砂を吹き付けて削ることで作品を仕上げた。絵付け体験では、同じ無地のコップに直接筆を入れて色を付けることで作品を仕上げた。体験をしたことで、その技術や伝統を守ることの大切さについて理解を深めることができた。



【サンドブラスト体験】



【絵付け体験】

○生徒の感想

- ・みなかみ町は、東京の都市と比べて、自然が多く空気もきれいだった。他にもサルがいたり、雪が降っていたり、普段見ることができないものを見られてとてもよかった。
- ・ダム見学では、2つのダムが私たちの生活に大きく関わっているということを知った。水を東京まで運んだり、災害に備えて量を調節したりともっと知りたくなりました。
- ・ダムを見学して、普段何気なく使っている水のありがたみを改めて感じられた。特に藤原ダムの建設では、150軒以上もの家がダム湖になってしまっただけでなく、20人もの人達が亡くなってしまったと知って、恐ろしいと思ったけれど、犠牲になった人達に対して敬意をもって、これからはもっと自然を大切にしようと思った。
- ・びードろパークではサンドブラストを体験した。私はセカンドスクールで、伝統工芸について調べたので、本物のガラス細工を見ることができてうれしかった。
- ・サンドブラスト体験では、ガラス製品の細かさや美しさを知ることができた。また、今度機会があれば絵付けや仕上げ前の作業を体験したいと思った。今回の校外学習はバスの中にあることがほとんどだったけれど、短い時間でとても楽しむことができたし、初めてのことが多く、良い刺激になった。これらを今後の学習に生かし、より多くの地域の自然環境や特色について知りたいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

当初の予定の一部を履行したことから感じたことは、「百聞は一見に如かず」ということである。社会科で「日本の資源・エネルギーと電力」において、ダムを利用した水力発電ダムについての学習をしても、写真や資料から得られる情報だけであり、想像の域を出ない。しかし、実際に見学することで、想像以上の規模や、ダムを設置する環境の過酷さ、ダムを維持していくことの厳しさ等をすべての感覚器官を通して、理解をより深めることができた。ダムだけではなく、ガラス工房での体験もそうである。これは、教員側だけではなく、生徒の感想からも読み取ることができた。

武蔵野市にはない、あるいは体験することができないことを実際に体験して学習することが、なによりも生徒にとっては深い学びにつながることは間違いない。したがって、セカンドスクールにおいて体験学習できることを精査し、それに関連する内容を、ファーストスクールでしっかりと事前に取り組むことで、深い学びに繋げていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度はダム見学を実施することができた。成果としては、実際に見学することで想像以上の規模や、ダムを設置する環境の過酷さ、ダムを維持していくことの厳しさ等をより深く理解できたことが挙げられる。また、事前学習では、武蔵野市とみなかみ町の文化や産業を比較したり、自然環境について詳しく調べたりするなど、興味関心を高めることができた。課題としては、SDGsや武蔵野市民科との関連について、もう少し事前に焦点を絞り、掘り下げてお

く必要があったと考える。せっかくの体験であるため、事前学習内容の精査を教員側である程度行い、更に深い学びに結びつけることが大切である。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

12月9日

参加人数 男子39名 女子32名
計71名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・農家民宿の方の話を通して、歴史街道成立の一端に触れながら文化の成立過程等への関心を高め、農業や伝統文化の知識を深める。

○時程表

12月9日（木）	
13：30	開会の挨拶
13：32	農家民宿の方の挨拶
13：37	実行委員挨拶
13：42	流れの説明
13：55	交流（Q&A方式） ※各宿7分（入れ替わりも込み）
15：05	お礼の言葉
15：10	農家民宿の方からのお話

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・JA大北の丸山さんの話を聞き、セカンドスクールの概要や白馬村について学んだ。
- ・宿泊予定の民宿に向け、自己紹介カードを作成し、送付した。
- ・農家民宿の方への質問を考えた。
- ・班ごとに質問者を選出した。

2 事後の学習内容

- ・質問の回答をワークシートにまとめた。

○特色ある活動内容

<生活・文化体験活動>

1 オンライン交流会

セカンドスクールに向け、準備を進めている中で、生徒たちは、それぞれの民宿でどのような体験活動をするのかということが一番気にかけていた。実際にそれぞれ宿泊する民宿が決まり、体験活動に興味を示していたが、中止となってしまった。民宿に向け質問を考えると、生徒たちは民宿での生活、体験活動を想像しながら取り組んでいた。民宿の方との交流では、事前に用意されていた、質問に関する写真をたくさん見ながら、民宿の方の話を真剣に聞いていた。他の班の質問にも興味深く聞き入り、実際に体験学習はできなかったが、白馬に行き、民宿で暮らしたような感覚を生徒たちは体感できた。



【質問の様子】



【民宿代表の方の挨拶】

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・古くからある知識や伝統を生かして生活することの大切さを学び、自分の地域の伝統や文化を大切に作る心を育む。
- ・オンラインであれば、幅広く、簡単に交流ができることが実感できた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・農業体験や民宿での生活は経験できなかったが、それに準ずる知識を得ることができた。
- ・中止になってしまったがオンラインで交流ができた。
- ・事前に質問を送っていたので、質問から回答までの流れを円滑にできた。

<課題>

- ・JA 大北のように、協力的な関係者がいないとこのような交流は実践できない。
- ・ブラウザ上のズームではバージョンが古く、思うように画面の変更ができない。

第六中学校

長野県安曇野市

10月24日～10月27日(3泊4日)

参加人数 男子40名 女子28名
計68名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長野県安曇野市・白馬村の自然、歴史、地理、文化などの地域性を多面的に多角的に学ぶ力。
- ・黒部ダムについて学習し、我が国の資源やエネルギー、自然保護について深く考える力。
- ・オリンピック開催地を訪れ、有形無形のオリンピックレガシーとどう向き合うか考えを深め、東京 2020 開催後の自分たちの生活について思考を深める。
- ・自ら課題を設定し、体験を通して、課題を追究し、解決する力。
- ・安曇野市の方との交流を通して、感謝や礼儀を重んじる姿勢。
- ・厳しい自然環境の中から生まれた生活の知恵を感じ取る力。

○日程表

10月24日（日）		10月25日（月）		10月26日（火）		10月27日（水）	
7:00	第二しろがね公園 集合、出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
		7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
7:30	バス出発	8:15	出発	9:00	A組：謎解きウォークラリー	9:00	発表準備
12:30	扇沢駅着	9:15	ウイング 21		クラリー	10:00	感謝を伝える会
12:45	昼食		オリ・パラ学習		B組：光城山トレッキング	12:00	昼食
13:30	黒部ダム見学	11:00	黒菱平・雲海デッキ (八方尾根)	12:00	昼食	13:00	閉校式
16:00	扇沢駅発	12:30	昼食	13:00	A組：光城山トレッキング	13:30	宿舍発
17:15	宿舎着、入館式	13:45	白馬ジャンプ競技場		B組：謎解きウォークラリー	17:00	第二しろがね公園着
18:00	夕食	16:40	入浴①		クラリー		解散式
18:45	入浴	18:30	夕食	15:45	入浴		
21:40	就寝準備	19:10	入浴②	18:30	夕食		
22:30	消灯	21:40	就寝準備	19:00	謎解きウォークラリー まとめ、発表会		
		22:30	消灯	21:40	就寝準備		
				22:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・武蔵野市の友好都市である安曇野の「歴史・文化」、安曇野の「地理・自然・環境」、安曇野の「産業・観光」、安曇野の「農業（農家）」、黒部（黒部ダム）の五つのテーマの中から班内で分担してテーマを決め、レポートの作成を行った。
- ・セカンドスクール最終日の「感謝を伝える会」に向けて、安曇野市と武蔵野市を比較して分かったことなどを班で一つのスライドとしてまとめ、発表の準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことや感じたことを作文にして、今回のセカンドスクールでの学びを振り返ることができるようにした。また、代表者の作文を学年だよりに掲載した。
- ・各班がセカンドスクールの行程の中で撮った写真の中から最も「映える」写真を投票するという活動を行った。投票の候補となった写真や選ばれた写真の掲示を行った。
- ・事前学習での学びを意識しつつも、実際にセカンドスクールに行ったことで得た知見を班ごとにテーマをもってスライドにまとめ、それを使いポスターセッションを行った。
- ・事前学習やポスターセッションを通して、自分の興味のあるテーマを選択して自分なりに深め、個人レポートとしてまとめる活動を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方尾根の見学

ゴンドラに乗り、八方尾根の見学を行った。今回の行程の中で最も標高の高い地で、武蔵野市とは違う安曇野の自然をより肌で感じ取ることができる見学になった。また、八方尾根から望める北アルプスの山々は生徒たちの中に美しい自然の風景を残すことになった。その風景が生徒たちの自然を保護する心に結び付くことを期待している。

2 光城山のトレッキング

光城山は、安曇野市内にある長峰山と連なる山で、セカンドスクールではガイドの方をつけて、トレッキングを行った。2班ごとに登っていく中で、生徒同士が声をかけ合って協力している姿が見られた。そうして支え合って登り、山頂で同じ景色を見ることで、生徒たちは「達成感を分かち合う」という貴重な経験ができた。また、直接山を登り、安曇野の自然を肌で感じることで、安曇野市の自然について思いを馳せるよい機会になった。



【光城山トレッキング】

＜社会体験活動＞

1 黒部ダム見学

黒部ダムの見学では主に黒部ダムを実際に見ることと黒部ダムの歴史について学ぶということを行った。黒部ダムの建設には、破碎帯との闘いや、多くの犠牲が伴ったことなどを学んだことで、生徒たちが今ある社会が先人たちの多くの苦労や知恵によって成り立っていることに気付くことができた。



【黒部ダム見学】

2 オリ・パラ学習

白馬村ウイング 21 にて講師の方をお呼びして講演会を行った。講演会の中でオリンピックレガシーについてのお話があり、オリンピック・パラリンピックが行われた施設等のその後に目を向けることも必要であるという気付きを得ることができた。作ったら終わりではなく、その後の使い道について考えるということは、今後、持続可能な社会を作っていく生徒たちにとって有意義な時間となった。

3 白馬のジャンプ場見学

1998 年の長野冬季オリンピックで使用された白馬のジャンプ台を見学することで、オリンピック・パラリンピックに関する意義を実感することができた。ジャンプ場の中には、資料も多く展示されていたため、2020 年以降のオリンピック・パラリンピックについての考えを深めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 謎解きウォークラリー

宿泊施設の周辺を、地元の方と一緒に行動班ごとに散策した。散策していく中で地元の方が出す疑問に生徒たちは考え、交流をしながら答えを考えていた。その日の夜に生徒たちは、一緒に散策した地元の方を招いて、学んだことを紙にまとめて発表し合う活動を行った。生徒たちはここでもった疑問を事後学習に生かしていたため、安曇野市について考える有意義な時間となっていた。



【謎解きウォークラリー発表会】

2 安曇野の農家の方との交流会

今回のセカンドスクールでは農家への宿泊体験がなかったため、農家の方との交流がなかった。しかし、これまで第六中学校の生徒たちが農家の方に受け入れていただいていた経緯があり、今回は宿泊できないが今後も関係を続けていくための架け橋となるべく、今までの感謝を伝えようということで、「感謝を伝える会」をオンライン配信もしつつ行った。「感謝を伝える会」を行うにあたっては、事前学習でスライドを作り、それらをセカンドスクール中にも修正を加えながら発表を行った。発表の中では、友好都市である安曇野市と武蔵野市を比べ、武蔵

野市にもぜひ訪れてほしいという思いで発表を行っていた。生徒たちは今回の発表で自分たちの住む武蔵野市にも目を向けることができ、多くの学びを得ることができた。

○生徒の感想

- ・光城山のトレッキングでの出来事から「みんなで支え合い、協力する」という事は、ちょっとしたことや何気ないことでも人が思いやる心から生まれるのではないかと考えた。
- ・安曇野と武蔵野は友好都市だということで仲良くしているだけだと思っていたけど、農家の方たちへ「感謝を伝える会」を行って、とても熱心に向こうの人が聞いてくれて、発表の後、嬉しそうにしている姿を見て、これが「つながり」なんだと感じ、学ぶことができた。
- ・特に大変だったのは5分前行動を心がけることで、食事や風呂、宿舎から移動するときなどほとんどの場面で必要だった。常に時計を見ていたため、時計を見る習慣が少しついたので日頃の学校生活でも生かしたい。
- ・セカンドスクールで学んだことは、次にする事を予想して行動することだ。例えば、次は風呂に入るので着るものを出しておく、自分に余裕が生まれる。これは学校生活でもそうだ。休み時間に外に行くときに次の授業が移動教室だったら、下駄箱に持ち物を入れておくなどの工夫がある。また、学校以外でも予想して動いていきたいと思う。
- ・黒部ダムを完成させるために、多くの人が犠牲になったと伺った。このような沢山の犠牲の上に、私たちの生活が成り立っていると知り、これからも電気などのエネルギーを大切にしていかなければならないと強く感じた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のセカンドスクールでは生徒たちに「自律」が特に求められていた。しおりを読み、今自分は何をすべきなのか、どの時間になったら動き始めた方がいいのか等、時間や決まりを意識して生活したセカンドスクールであった。そのためセカンドスクールから帰ってきた多くの生徒たちは、チャイムの数分前には着席していたり、朝読書の始まる時間には本を読み始めていたり時間を意識した行動をとり始めていた。また、そうした行動ができていない生徒に対しても生徒同士で呼びかけることができていた。これらの変化はセカンドスクールでの学びが生きているものだと考えている。

他にも、今回のセカンドスクールでは「感謝を伝える会」を行う中で、学習者用コンピュータで作ったスライドを使用して発表するという取り組みを行った。生徒たちは、スライドの中にアニメーションを入れたり、文字の大きさを変えてみたりと、各班が工夫を凝らし取り組んでいた。セカンドスクールから帰ってきて作り上げたポスターセッション用のスライドも「感謝を伝える会」以上の仕上がりで、発表面に関しても成長を感じられた。セカンドスクールを通して、そういった学習者用コンピュータを利用して何かを作ったり、発表したりするスキルが向上したことで、今後の学習活動では、より高度な活動につなげていけるのではないかと感じている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

コロナ禍で実施されたセカンドスクールでは感染症対策として様々な制限が設けられた。生徒たちにとっては、かつて行っていたセカンドスクールよりも窮屈なものであったと考えられる。しかし、コロナ禍で実施する以上、絶対に感染者を出してはいけないという思いで対策を行った。そのため、教員が生徒に出すきまりは普段とは異なるものが多くあった。そのきまりの多くは、これからのウィズコロナと呼ばれる世間の流れの中で、今後に生かせるものが多くあると感じるため、ここで例を示す。

- ・黙食
- ・黙浴
- ・お風呂に一度に少人数で入るための細やかなタイムスケジュール
- ・布団を敷く際に距離を取り、頭の位置が離れるように指示
- ・就寝時のマスク着用
- ・使い終わったマスクは袋に包んで捨てる
- ・常に窓を 10 センチ程度開けて、換気を徹底
- ・洗面台は 1 人ずつ利用し、そのための時間も設ける
- ・部屋班の人数を基本 4 人とし、大広間や和室など最大限使える部屋を確保
- ・水筒を持参させず、1 日 1 本ミネラルウォーターを配布
- ・食堂と第 2 研修室でクラスごとの食事（全員前向き座席）



【バス内の様子】

農家体験ができなかったが、代案として「オリ・パラ学習」や「感謝を伝える会」を実施したことで、生徒たちが主体的に考える力を深めることができた。特に「感謝を伝える会」では、感染状況によってはオンラインでの実施も考え、安曇野市農政課の方とも連携をして準備を進めた。また、学習者用コンピュータを活用し、班でのスライド共同編集にも挑戦した。限られた時間の中で生徒たちは、熱心に取り組み、本番では自分たちの成果をしっかりと農家の方へ伝えていた。2年続けての農家体験が中止となり、第六中学校と安曇野市を「つなげる」架け橋になろうという思いが形や言葉となって安曇野の方へ届けることができたと思う。

次年度に向けては、安曇野ふるさと応援団や安曇野市農政課の方と連携し、これまでの農家体験に加えて新たなプログラムが定着できるようにしていきたい。謎解きウォークラリーや光城山のトレッキングでは、事前学習や事後学習での取り組みが多く、多くの場面で生かされた。地元の方がガイド役となり、様々な話を通して交流を深めることができたことは、今後も続けていく価値があるプログラムである。

最後に、実施にあたりビレッジ安曇野の方には多くの感染予防対策をお願いした。部屋の使用や食事場の確保など温かく対応していただき、とても感謝をしている。しかし、生徒数に対しての部屋数や入浴について、コロナ禍においては多くの課題があることも痛感した。次年度以降、生徒数の増加や感染状況によっては宿泊先の検討もしていく必要性を感じた。

フシセカンドスクール



第一小学校 11月24日～11月25日(1泊2日)	山梨県南都留郡 富士河口湖町 参加人数 男子52名 女子31名 計83名
--	---

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・施設見学や散策の活動を通して体験したことや、ガイドの方からの説明などの情報から、自己の課題に必要な情報を取捨選択し、解決しようとする力を習得する。
- ・5合目周辺トレッキングなどの体験活動の場面で、安全に気を付けて体を動かす力を習得する。
- ・事前学習から立てた自己の学習課題について、富士山とその周辺の散策や富士山に関わる施設見学などから集めた情報を取捨選択する力を養う。
- ・散策や見学を通して得られた知識と、今までに習得した自分の知識や経験とを結び付けてまとめ、表現する力を養う。
- ・自身が設定した課題の解決に向け、他者と力を合わせて協働的に取り組む中で、異なる意見を生かして新たな学びを獲得しようとする力を育む。

○日程表

11月24日(水)		11月25日(木)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床、検温、洗顔
8:15	出発	6:30	朝の会・散歩
	談合坂 SA (トイレ休憩)	7:15	朝食・寄せ書き・荷物整理
10:15	紅葉台入口着・ハイキング開始		※30分ずつローテーション
	※紅葉台→三湖台		学級ごとに別れて行う
11:30	紅葉台入口発	8:45	掃除・片付け
12:00	西湖野鳥の森公園着(昼食・休憩)	9:00	開校式
13:00	西湖野鳥の森公園出発	9:30	富岳風穴駐車場着～樹海ハイキング～
13:30	富士湧水の里水族館見学・忍野八海見学	10:50	西湖野鳥の森公園着
	※2手に別れて見学	11:20	富士山アリーナ移動～昼食・休憩～
16:00	宿舎到着・開校式	12:20	富岳風穴移動・見学
17:00	入浴・夕食・はがき・寄せ書き	13:40	富岳風穴発
19:00	学習の記録	14:30	談合坂 SA (トイレ休憩)
20:00	就寝準備 健康観察	15:30	学校着・帰校式
21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・事前学習として、富士山の魅力を探る活動を中心とし、学習活動を進めた。世界中から観光客が訪れる富士山には、どのような魅力があるのかを地図や周辺施設などの資料から考えさせ、個々に課題を設定した。10月頃からは具体的に調べてみたいことを絞り込み、それを課題として設定して調べ学習を進めた。活動に際しては、市立図書館からも本を借りるなどしながら情報を集めた。その後、集めた情報を整理し、互いに発表し合う活動を行った。情報を共有したことで、事前学習で明らかになったこととまだ分からないこと・新たに調べてみたいことが明確になり、どの学習活動でどんなことが学べるか、見通しをもつことができるようになった。
- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて指導した。また、養護教諭と連携し、保健領域「体の発育・発達」の授業を行い、心身の発達に伴った健全かつ快適な過ごし方について指導した。

2 事後の学習内容

- ・まず、宿舎での生活や2日間の学習活動を通して、生活や行動面で学んだことと自身の成長を作文にまとめて発表し合った。互いの学びや成長を共有することで、宿泊行事に対する考え方や適切な過ごし方などについてより深く振り返ることができた。また、各児童が設定した課題学習に対し、学んだことや新たな発見を学習者用コンピュータでスライドにまとめ、学習の成果として交流を図った。その後、学習したことを来年4年生になる、現在の3年生にも伝えたいという思いから、「プレセカンドスクールガイドブックを作ろう」という活動を設定した。児童一人一人が、見学した施設のことや宿泊内容などをスライドにまとめた。また、プレセカンドスクールでの感動や学びを3年生に伝えるため、思いや願いが伝わるように、話す順番や写真の見せ方などを工夫し、総合的な学習の時間にて伝える会を行った。そして、ガイドブックを3年生にデータで渡した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 紅葉台・三湖台ハイキング

紅葉台の入口から三湖台にかけて整備されたコースを歩いた。展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望できた。児童はそれらの位置関係から富士山の噴火に伴う溶岩流によって、樹海や富士五湖が形成されたなど、事前学習や当日の施設見学で身に付けた知識を確認し合っていた。



【三湖台から眺める富士五湖】

2 富岳風穴見学・青木ヶ原樹海ハイキング

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学はネイチャーガイド6名同行のもと行った。樹海ハイキングでは、ガイドから植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態についてくわしく説明していただいた。動物や樹木だけでなく、朽ちた木、キノコ類、コケ類、シダ類や微生物など全てが互いに関係しながら豊かな自然を育んでいるということを知り、こうした自然を大切にしなければという意識を高めていた。富岳風穴の見学では、溶岩棚や縄状溶岩など、自然の織り成す世界に改めて驚いた様子であった。



【ネイチャーガイドによる説明】

＜社会体験活動＞

1 山梨県立富士湧水の里水族館

湧水の里水族館では、富士山周辺の多くの動植物が展示されていた。展示はいずれも回遊水槽や流水水槽など自然に近い環境を整え、工夫を凝らしていた。ブラウジングコーナーやオープンラボコーナーなども充実しており、館内を学習班で自由に見学することで、児童は様々な角度から観察や調べ学習を進めることができた。



【魚の様子に夢中な児童】

2 忍野八海見学

学習班ごとに忍野八海マップを配布し、八池探索を行った。それぞれの池の名前の由来や歴史などについて、掲示板に書かれている内容を教員より説明を受け、興味深く聞いていた。その一つである涌池では、のぞき込んだ池がとても透明で、その水深が7mもあることを知り、富士の湧水のきれいさを実感した。



【忍野八海の鏡池を見学】

○児童の感想

- ・行く前は、初めての宿泊学習でとても不安だったけれど、思っていた以上に自然の生き物や景色を見て楽しむことができて、うれしかったです。
- ・1泊2日で短いと思っていたけれど、みんなとの共同生活はとても楽しかったです。富士山がきれいに見えて、大盛りのごはんも食べられたことが心に残っています。
- ・宿泊学習をできたことが心に残っています。初めての集団行動でみんなと協力しないといけないし、5年生のセカンドスクールにも生かすためと考え、やらなければいけないことがたくさんあって大変でした。それでも、みんなと一緒に過ごすことができて、楽しかったです。
- ・普段の学校では学べないことを、プレセカンドスクール先で学ぶことができて、自然にたくさん触れることができたので、楽しかったです。

- ・初めて親がいない状況で宿泊する機会だったので、行く前は緊張と心配でいっぱいだったけれど、友達と声を掛け合い無事に楽しく過ごすことができたため、協力することの大切さを学びました。
- ・紅葉台ハイキングでは、登り坂がとても急斜面で登るときはとても大変でしたが、展望台につくと、そこから見る富士山、紅葉、湖がとてもきれいで、自然の力の大きさを感じました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールでは「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って一人一人が課題を決め、現地でグループに分かれて調べ学習や発表を行う。ファーストスクールと異なり、現地学習では、学習形態が状況や内容に応じて変化することや、計画の見直しが必要になることもある。第4学年から「事前学習ー現地学習ー事後学習」という大きな活動の流れを押さえ、次年度は、よりスムーズに学習活動に取り組むことができるようにしていく。

プレセカンドスクールでは教員も含めて全員がひとつの宿舎で生活をするのに対し、セカンドスクールでは分宿となるため、児童が自分たちの力で班の全員がよりよく生活するための工夫を考えていくこととなる。そのため、今回のプレセカンドスクールでは、荷物の整理整頓、入浴や食事、就寝前の過ごし方など生活面に関する知識を身に付けさせるとともに、教師が教えるだけでなく、児童同士での話し合いによる課題解決の場面も積極的に設けた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

朝の会を河口湖畔で行うこととした。朝の静かな湖畔と、そこに差し込む朝日でとてもさわやかな朝の会となった。また、初めて忍野八海を見学の一つに入れた。今回は、学習班ごとに移動し、自分たちで相談しながら散策ルート考えた。忍野八海内の移動を班ごとにまとまって移動する経験は、班ごとに分宿する次年度のセカンドスクールにも生かすことができると考えた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、事前の計画を何度も変更をする必要があった。そのため、児童自身に、豊かな自然体験であったり、探究活動であったりを充実させることが難しかった。しかし、初めての宿泊行事を体験させることができたという点では、一定の成果をあげることはできた。そういう意味では、大きな成功を収めることができたともいえる。

次年度は、富士山の事前学習に関して、個人の課題解決だけでなく、当日見学する施設や見学場所についても、多くの時間を割いて学習させたい。その上で、ガイドブックにまとめるために自分たちに必要なことを調べる現地での学習というものとした。

また、児童にとってよりよい体験活動ができるように、今後も新しい施設や見学場所を模索していきたい。

第三小学校

群馬県利根郡片品村

10月28日～10月29日(1泊2日)

参加人数 男子44名 女子31名
計75名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 集団生活でのマナーを守り、生活上自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付ける。
- ・ 必要な情報を集めたり、現地の方に聞いたりして、興味・関心を喚起し、自らの課題を解決する力を身に付ける。
- ・ 友達同士で、適切に意見交換を行いながら試行錯誤を繰り返し、課題を解決する力を育てる。
- ・ 課題解決したことを伝え合うことにより、学び合い、新たな課題を解決していこうとする力を育む。
- ・ 調べたこと、実際に行って学んだことを、プレゼンテーションソフトを使って相手に分かりやすく伝える力を育む。
- ・ 自然との触れ合いや、現地の方との触れ合いを通して、豊かな情操や感性を養い、お世話になっている人への感謝の気持ちを育てる。
- ・ 自然体験や人との関わりから学んだことを、今後の学習や生活に生かしていこうとする態度を育てる。
- ・ 何事も最後までやり抜こうとする力を育てる。

○日程表

10月28日(木)		10月29日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・検温
8:15	出発	7:00	朝食
11:30	丸沼ダム見学	7:30	宿、部屋の掃除
12:30	昼食(弁当)	8:00	ありがとうの会
13:40	ロープウェイ、山頂散策	8:30	閉校式
14:50	炭オブジェ作り	8:45	たばこや出発
15:50	丸沼高原出発	9:00	木工ネームプレート作り
16:30	開校式(たばこや)	10:00	周辺散策
16:45	避難訓練	11:00	森のキャンプ場出発
17:00	検温・入浴・荷物整理	11:30	吹割の滝見学
18:00	夕食	12:00	吹割の滝出発
19:30	ありがとうの会準備	12:30	昼食(伽羅苑)
20:00	健康観察、学習の記録	13:00	伽羅苑出発
20:30	就寝の準備、翌日の準備	16:00	学校着・帰校式
21:00	就寝、消灯	16:45	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、プレセカンドスクールに参加する目的を学年で確認した。事前学習で調べたことを確かめること、実際に見学したり、活動したりすることで得た知識や学びを今後の生活に生かすことなど、明確な目的をもって参加することでより有意義な時間になることを伝えた。
- ・各学級から実行委員を募り、学年のめあてを決めた。「楽しく協力して学び合おう」をもとに各学級や各班で決まりや約束を作り、めあてを達成しようとする思いをもたせた。
- ・片品村の自然や気候について、各々が自分のテーマを決めて調べ学習を行った。夏休み中には、調べたことをまとめ、プレゼンテーションを作成する課題に取り組んだ。
- ・各々が作成したプレゼンテーションを学級で発表し、より理解を深めた。また、分かりやすいプレゼンテーションの構成や発表の仕方についても振り返りをして改善した。相手により分かりやすく伝えるための工夫について学習を深めることができた。
- ・実行委員の他に、班長、副班長、生活係、学習係、レクレーション係などの役割を分担した。一人一役で責任感を持たせることで、積極的に活動に参加できた。

2 事後の学習内容

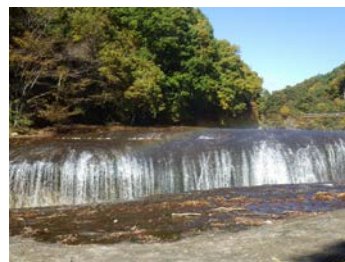
- ・プレセカンドスクールを終えて、自分自身や学年としての成長をしおりに書いた。また、それらを共有するために学年で集まり、振り返りを行った。
- ・学習と生活の振り返りを行い、学習に関しては、実際に行ってみて分かったことをプレゼンテーションに加えた。生活に関しては、今後の生活に生かしていくことを確認し合った。
- ・来年、プレセカンドスクールに行く3年生に向けて「プレセカンドスクールを伝える会」を開いた。「片品村の自然」「宿での生活」「炭オブジェ・木工ネームプレート作り」などのグループに分かれて発表内容を考えた。事前に調べたことを伝えるのではなく、実際に行ったからこそ学べたことや今の生活にどう生きているかを伝えることができた。
- ・「プレセカンドスクールを伝える会」では、発表の仕方を工夫した。紙芝居、劇、プレゼンテーションなどの発表方法から選び、テーマに適した方法で発表することができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 吹割の滝見学

高さ7m、幅30m、奇岩が1.5kmに渡って続く吹割の滝を見学した。名前の由来の通り、河床を割くように流れ、そこから水しぶきを吹き上げる様子が見られた。「思っていたよりも迫力があつた。」と雄大な自然を感じ、その土地の地形についての理解を深めた。



【吹割の滝】

2 ロープウェイ・山頂散策

日光白根山を一望できるロープウェイに乗車した。丸沼高原や座禅山、前白根山などを見ながら、標高 2,000m の山頂駅まで約 15 分間の空中散歩をした。ロープウェイからは、見学した丸沼ダムも見え、改めてその大きさや地形を確認することができた。また、山が連なる様子から、丸沼が高い山に囲まれた場所にあることが分かった。

山頂散策では、高山にしか生息しない木や野生動物の形跡などをガイドさんに教えていただき、自然についての知識を深めた。山頂は一段と肌寒く、東京との気温差を感じることもできた。



【山頂散策】

3 森のキャンプ場周辺散策

森のキャンプ場では、落ち葉や木の実を集める活動を行った。形、大きさ、色など、同じ場所に生息する木でも、様々な種類があることに気付いた。「近所の公園で落ち葉や木の実を拾ったことがあるが、もっとたくさん種類があって驚いた。木の名前などをもっと詳しく知りたくなった。」と片品村の自然に、より興味をもつきっかけになった。

<社会体験活動>

1 丸沼ダム見学

社会科の「わたしたちの暮らしと水道」では、ダムと森林の働きを学習した。ダムが建設されている場所や地形などから、どのような役割を果たしているかを知ることができ、授業での学びを深めることができた。いかに乗ってダムを目の前で見学することができたので、ダムの大きさをより体感できた。

2 宿の方、指導員の先生とのありがとうの会

「ありがとうの会」は、各宿で行った。お礼の言葉や出し物を考えて宿のお母さん、お父さんに喜んでもらえる会にしようとしていた。お礼のメッセージカードには、指導員の先生、宿のお父さん・お母さんの「すてきなところ」を書いてプレゼントすることができた。短い期間だったが、宿泊体験を支えていただいた人がいることに気づき、感謝の気持ちをもつことができた。

<生活・文化体験活動>

1 炭オブジェ・木エネームプレート作り

炭オブジェ作りでは、土台の木も、上に載せる飾りも全て片品村の木や木の実が使われていた。実際に見た片品村の風景と作品を重ね合わせながら作ることができた。

木工エネームプレート作りでは、片品村で育った木に自分の名前を彫って、バーナーであぶり、オリジナルのエネームプレートを完成させることができた。



【炭オブジェ作り】

○児童の感想

- ・短い期間だったからこそ、しっかりと片品村を学ぶことができた。自然がたくさんあるところでは、どんな生き物がいるんだろうと思ったり、吹割の滝ではどうやってこの滝はできたんだろうと考えたりした。今まで考えたことのないことに興味をもつことができた。それに、学校で調べたことを実際に見られたのがとてもよかった。
- ・生活班の生活・学習係としてみんなを一つにまとめることをがんばった。健康調査票を確認することやきれいに先生に出すことなども、忘れずにすることができた。自分の役割を果たすことができたので、学校でも何かの役をするときはがんばりたい。
- ・自分とみんなの成長は、声をかけたり、お手伝いしたりすることが増えたことだ。みんなで協力して活動できていたと思う。でも、もう一步レベルアップするなら、おしゃべりをしないでもっと素早く行動することだ。そうすれば、今よりも5年生に近付けると思った。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

学級ごとに一つの宿で集団生活を行ったことで、担任が児童の様子を把握することができた。そのため、気が付いたときにすぐに支援ができた。児童は安心して初めての宿泊体験ができ、来年度のセカンドスクールの自信につながった。来年度は、班ごとに分かれて宿泊をする予定だが、その橋渡しとしての経験を積むことができた。

また、バスからの景色の移り変わり、宿からの眺め、山頂散策など、実際に行くことでしか味わえない片品村の自然を体感できた。東京都との違いを見付けることで、より深い学びへとつなげることもできた。「楽しかった。」「きれいだった。」だけにとどまらず、事前学習から課題を解決したり、新たな課題を見付けたりという学習ができた。課題解決型の学習を今後も積み重ねることで、セカンドスクールでの学びも有意義なものになると考える。

児童の振り返りで最も多かったのが、「みんなで協力することの大切さを学んだ。」ということだった。困った時に手を差し伸べてくれる友達の存在やみんなでルールを守ることによってみんなが気持ちよく過ごせることに気付いた経験をセカンドスクールでも生かしていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は学級ごとの活動が多かったので、移動や集合に時間がかからなかった。宿も学級ごとだったので、児童が普段の学校生活との違いを感じずに、落ち着いて活動に取り組めたことはよかった点である。ただ、熱心に取り組んだからこそ、活動時間が予定よりも長くなり、宿に到着する時間が遅れてしまった。初日は、活動を一つ減らす、短くするなどの手だてが必要であった。

本来であれば2泊3日の体験を1泊2日で行ったので、セカンドスクールの準備としては不十分ともいえる。しかし、事前学習や当日の活動、事後学習に関しては、本来と同じように行い、学び合うことができた。身の回りの整理整頓、時間を守ること、友達と助け合うことなどは、今後の学校生活に生かしながら、来年度のセカンドスクールにつなげていきたい。

第五小学校	山梨県南都留郡山中湖村
11月18日～11月19日(1泊2日)	参加人数 男子29名 女子39名 計68名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山周辺の自然や動物、食べ物などについて調べたり、体験したりする活動を通して、富士山を含めた山中湖近辺の自然について、理解を深める。
- ・宿泊生活や体験的な活動を通して、生活自立に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・富士山周辺と武蔵野市の環境の違いなどに気付き、私たちの生活を支えてくれる人や自然について学びを深める。
- ・宿泊生活や体験的な活動への目標や課題を設定し、協力して取り組む。
- ・自他のよさを生かしながら、協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。
- ・友達と協働し、よりよい生活をつくろうとする態度を養う。

○日程表

11月18日(木)		11月19日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面
8:00	学校発		朝の会・朝食
11:00	富士山五合目着・見学 山中湖交流プラザきらら着	7:00	大掃除・荷物整理
12:20	昼食(弁当)	8:40	閉校式
13:00	山中湖ハイキング	9:10	ネイチャーラリー
14:30	さかな公園水族館見学	11:30	宿舎発
15:45	宿舎着・開校式	12:00	昼食(ほうとう)
16:15	学習のまとめ	13:30	忍野八海見学
16:30	入浴	14:10	忍野村発
18:00	夕食	16:15	学校着・帰校式
19:15	室内レク		
20:30	係活動・班会議		
21:00	検温・就寝準備		
21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然との触れ合い～」をテーマにかかげ、富士山や山中湖、忍野八海などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをプレセカンドスクールマイガイドブックとしてまとめた。

2 事後の学習内容

- ・体験したことなどを作文や短歌、俳句、川柳などに書き表し、交流した。
- ・反省や感想を出し合ったり、映像を見て振り返ったりする活動を通して、今後の学校生活に生かしていきたいことやセカンドスクールに向けて付けた力をつなげていくことをまとめた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目見学

富士山五合目トレッキングはできなかったが、山の下とは違う冷たい（0℃程度）空気を体感したり、道端の積雪を実際に目の当たりにしたりすることを通して、富士山の自然環境を見学できた。

2 山中湖ハイキング

「山中湖交流プラザきらら」をスタートとし、山中湖に沿って1時間のハイキングを行った。山中湖にきている白鳥や周辺の紅葉した木々など、自然を感じながらハイキングができた。



【山中湖ハイキング】

3 ネイチャーラリー

8つのコーナー（ハンター、竹ポックリ、ロープ渡り、カモフラージュ、重さ当て、火おこし、目隠しロープ、サイレントウォーク）を班ごとに順番にまわり、体を動かしたり体験したりすることで、自然に触れることができた。野生動物と共に生きていくためにどうしたらよいのかを考えることができた。

4 忍野八海見学

クラスごとに見学した。児童は事前学習で忍野八海について学んでおり、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

＜社会体験活動＞

1 さかな公園

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。児童が普段行くような海水魚の水族館ではなく、淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあった。事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚に感動したりすることができた。富士五湖や周辺の川に住む魚へ理解や興味が深まった。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう食体験

クラスを半分に分け、4つの民宿に分かれて山梨県の郷土食であるほうとうを食べた。

野菜が豊富に入っており、好き嫌いも心配されたが、ほぼ全員が完食した。山梨県の郷土料理についての理解を深めた。



【ほうとう食体験】

○児童の感想

- ・ネイチャーラリーでは、火おこしが楽しかった。なかなか火がつかなかったけれど、またやりたいと思った。
- ・ほうとうには、かぼちゃが入っていてとても温かくておいしくてたくさんおかわりをした。
- ・富士山五合目はびっくりするほど寒かった。体がカチコチになった。
- ・バスレクも室内レクも大成功でもりあがった。みんなが喜んでくれてうれしくなった。
- ・班の友達と協力して過ごした。友達と心をつなぐことの大切さを学んだ。
- ・プレセカンドスクールでみんなと2日間を過ごして自信ができた。5年生のセカンドスクールに生かしたい。

○セカンドスクールの教育活動との関連

来年度のセカンドスクールに向けて、生活面の向上と友達との協力に重点を置いて指導を行った。生活面では、気持ちのよいあいさつ、素早い行動、自分の荷物の管理、お世話になった方への感謝の気持ちを表すなど普段の学校生活の積み重ねを重視した。その積み重ねの上で、布団たたみや、活動の準備、衣服の調整などの体調管理も自分自身で行うことで、自分で考えながら生活することができた。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。協力という面では、生活班や行動班など班ごとでの活動を大切にすることで、みんなで出来るようにと考えて行動する力が育った。互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿が見られた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は実施日が9月から11月に延期になったため、「富士山トレッキング」を行うことはできなかったが、「富士山五合目の散策」や「山中湖ハイキング」を通して、富士山周辺の自然を体感することができた。来年度は例年通り「富士山トレッキング」を実施していきたい。
- ・「ネイチャーラリー」は例年キャンプ場で行っているが、日程的にキャンプ客が多く来場することが予想されたため、今年度は安全を考慮して宿舎のグラウンドで実施した。グラウンド周辺の森での活動も取り入れたため、自然に触れながら活動できてよかった。来年度はまたキャンプ場で実施できるように検討していく。
- ・例年、ほうとうを作って食べる「ほうとう体験」を実施しているが、日程が短縮された関係上、今年度は「ほうとうを食す」という形での実施となった。来年度は以前のように「ほうとう体験」を実施していきたい。
- ・係活動では、子どもたちが主体的に活動できたことがよかったが、実施時期が延期されたことなどから準備期間が短くなった。来年度は準備期間をしっかりと取って、内容を充実させていく。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

11月3日～11月5日(2泊3日)

参加人数 男子59名 女子69名

計128名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・世界遺産の富士山周辺の自然や文化について、体験的な学習を通じて知る。
- ・プレセカンドスクールにおける体験学習を通して、自然観察の視点を学び、他教科の学習や学びにつなげる。
- ・富士山周辺の文化や自然に対して、武蔵野市との違いに着目して、自ら課題を設定し、調べ追究する力を養う。
- ・学習を通して学んだことを分かりやすく整理し、下級生へプレゼンテーションすることができ力を育成する。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し、助け合いながら生活する態度を養う。
- ・保護者の元を離れる中で、自主的・自発的に生活する態度を育てる。
- ・富士山周辺の自然や文化について興味関心をもち、課題を見付け、主体的に調べようとする態度を養う。

○日程表

11月3日(水)		11月4日(木)		11月5日(金)	
7:15	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:30	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:30	「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」 西臼塚ガイドウォーク	7:15	1・2組朝食 3・4組部屋の整理	7:15	1・2組部屋の整理 3・4組朝食
13:00	昼食	8:00	1・2組部屋の整理 3・4組朝食	8:00	1・2組朝食 3・4組部屋の整理
14:30	「自然の不思議を体験しよう」 駒門風穴	9:30	宿舎発	9:00	「自然で作ろう、草木染」 草木染体験
16:00	宿舎着、開校式	10:00	「よく見よう、じっと見よう、自然のつながり」 1・2組忍野八海 3・4組湧水の里水族館	11:00	1・2組昼食 3・4組荷物整理
16:30	避難訓練	12:00	昼食	11:30	1・2組荷物整理 3・4組昼食
17:00	学習のまとめ	13:00	1・2組湧水の里水族館 3・4組忍野八海	12:15	閉校式
17:30	班長会	15:30	宿舎着	12:30	宿舎発
17:45	1・2組夕食 3・4組入浴	16:00	学習のまとめ	15:30	学校着、帰校式、解散
18:30	1・2組入浴 3・4組夕食	17:00	班長会		
19:15	ハガキを書く	17:45	1・2組入浴 3・4組夕食		
20:00	室内レク	18:30	1・2組夕食 3・4組入浴		
20:30	健康観察	20:00	室内レク		
21:00	荷物整理、就寝準備	20:30	健康観察		
21:20	消灯	21:00	荷物整理、就寝準備		
		21:20	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料をもとに確認を行った。
- ・課題解決学習とするために、富士山の自然・文化・産業・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究し、各自新聞にまとめた。
- ・生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを行って、やるべき活動を明確化させ、責任感をもたせた。
- ・草木染めを行うにあたり、絞り加工の方法や種類について調べ、絹のハンカチに絞り加工を施した。普段生活している武蔵野市と山梨県の伝統工芸を関わらせることにより、双方の地域のもつよさや特徴に目を向けさせた。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだことを、学習者用コンピュータを使いスライドにまとめた。班ごとに発表練習を行った。学校公開では保護者に見ていただいた。良かったところや改善点を教えていただき、「スライドのまとめ方」「写真の見せ方」「話し方や目線」など分かりやすく伝える方法を意識しながら準備を行っていった。2学期末に、来年度プレセカンドスクールに行く3年生に学んだことや楽しさについて発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 西臼塚火口とブナ林

今年は富士山の寄生火山である西臼塚火口とその周りのブナ林をトレッキングした。現地の講師の方から武蔵野市では見られない植物や噴火口の秘密、森に生息する動植物について話を聞いた。実際の噴火口にも立ち、自然の雄大さを体感することができた。



【西臼塚の火口の上で】

2 駒門風穴見学

1日目の午後は予定通り、駒門風穴を見学した。駒門風穴は今からおよそ1万年前の噴火でできた溶岩洞窟である。事前学習で駒門風穴について調べていた児童も多く、自然が作り出した神秘的な空間に、児童は驚きとともに感動していた。現地講師の説明を聞きながら見学したため、その歴史や成り立ちに触れながら学びを深めることができた。



【駒門風穴】

3 忍野八海と桂川、富士湧水の里水族館

コロナ禍ということで、午前と午後で2クラスずつに分かれてそれぞれ見学をした。富士山の自然が作り出した天然記念物である世界文化遺産の忍野八海と富士山の湧水が豊富な桂川を、現地講師の方の説明を聞きながら見学した。実際に池の底の砂地から砂を巻き上げて水が湧いている様子を見て、児童は富士山の自然のつながりを感じることができた。また、富士山の湧水を使った淡水魚専門の富士湧水の里水族館は職員の方の案内を聞きながら見て回った。流水水槽は、実際の川を再現しており、桂川で聞いた講師の話の思い出しながら、イワナやヤマメの様子を間近で見ることができた。これらの見学を通して、自然の多様性や生態系についての理解を深めることができた。



【忍野八海 銚子池】

<生活・文化体験活動>

1 草木染

事前に絞り方について調べ、山梨県の特産品である絹のハンカチに割りばしや輪ゴムを使って、折絞りや板締め絞りなど各自が工夫して絞りを入れた。炊事場では染色液が大鍋いっぱいに入っており、児童はそこにハンカチを漬け、水でよく洗ったあと、媒染液であるミョウバン水に漬けるという工程を繰り返した。回数を重ねるごとに布がきれいな色に染まっていった。最後の工程を終えてハンカチを広げると、思いがけない模様の美しさに児童たちから歓声があがった。草木染を



【草木染】

終えて、講師の方から染色液の材料であるハルジオンが外来種であることや富士山の自然と外来種の問題について話があり、富士山の自然の生態系について学ぶことができた。

○児童の感想

- ・ 駒門風穴が富士山の噴火で出た溶岩でできたことは調べて分かっていたけれど、実際に行ってみるとその大きさにびっくりしました。
- ・ 忍野八海では富士山の湧水が実際に出ていところを見ることができました。講師の方の話を聞きながら、富士山の自然が様々な生物と関わりあっていることを知りました。
- ・ 草木染ではだんだんと色が濃くなっていき、最後にハンカチを開いたときにきれいな模様のはっきりと出ていてうれしかったです。
- ・ 3日間みんなで集団生活をする中で、5分前行動や自分の仕事に責任をもつことの大切さを学びました。来年のセカンドスクールがとても楽しみにになりました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普段の学校生活につなげることで、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識付けし学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげた。
- ・友達との集団生活の中で、一人一人役割を担って活動する経験をすることにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓、宿泊活動時の感染予防など、生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けての自信につなげることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、例年と同じ行程で行くことができなかったが、密にならないように、見学場所や宿舎での食事や部屋の人数などを変更したことはよかった。
- ・同じ講師の方が3日間付き添ってくださり、児童の様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにもつながる「自然を視る目」を養うことができた。
- ・各学級に2名の指導員を配置したため、安全面の確保や個別の支援などを十分に行うことができた。
- ・次年度は新型コロナウイルスの感染状況に注視しながら、今年度と同様、柔軟に対応できるようにしていきたい。

境南小学校	山梨県南都留郡山中湖村
11月15日～11月16日(1泊2日)	参加人数 男子42名 女39名 計81名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然体験を通して、生息する動植物について理解すると共に、富士山周辺の自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる。
- ・富士山や山中湖などの自然について調べる課題を設定し、その課題を解決する。
- ・課題を解決するため、調査活動を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

11月15日(月)		11月16日(火)	
8:00	学校集合(出発式)	6:00	起床、検温、洗顔
8:25	出発	7:00	朝の会
	調布 IC より中央道へ	7:30	朝食
9:30	談合坂 SA (トイレ休憩)	8:10	片付け・清掃・荷物整理
10:30	ふじさんミュージアム着	9:00	草木染め体験
11:25	ふじさんミュージアム発(バス)	12:00	昼食
11:30	東大演習林着	12:45	閉校式
12:15	昼食(弁当)、トイレ休憩	13:00	宿舎発(バス)
13:30	ネイチャーハント開始		山中湖 IC より中央道へ
14:30	ネイチャーハント・振り返り終了	14:00	談合坂 SA (トイレ休憩)
14:40	東大演習林発	15:30	学校着
15:00	宿舎着・開校式		帰校式
	入室・荷物整理・避難訓練		解散
15:30	入浴、学習記録・まとめ		
17:50	夕食		
18:50	星空観察・ネイチャーハント振り返り		
20:15	健康観察		
20:40	就寝準備		
21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・生活班の係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを行い、やるべき活動を明確化させ、責任感をもつことができるようにした。
- ・国語科「世界にほこる和紙」「情報を百科事典で調べよう」「伝統工芸のよさを伝えよう」の単元と関連させ、富士山および富士周辺の魅力を伝えるリーフレット制作の見通しをもたせた。具体的には、まず、魅力を伝える文章の構成を「世界にほこる和紙」で捉えた。次に、「伝統工芸のよさを伝えよう」でリーフレットの構成や制作手順を確認した。さらに、「情報を百科事典で調べよう」では、情報収集の1つの方法として、百科事典の調べ方を学んだ。これまでの学習を踏まえて、児童は、リーフレットのテーマを決めた。プレセカンドスクールでは、自分が決めたテーマの魅力を伝えるために、「ふじさんミュージアム」やネイチャーハント、草木染めの体験から必要な情報を収集するという目的意識をもつことができるようにした。

2 事後の学習内容

- ・2学期の国語科「世界にほこる和紙」「情報を百科事典で調べよう」「伝統工芸のよさを伝えよう」の単元と関連させ、「ふじさんミュージアム」やネイチャーハント、草木染めの体験から分かったことなどを生かして、リーフレットの制作に取り組んだ。リーフレットの裏表紙は、一人一人がプレセカンドスクールに参加した感想を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ネイチャーハント

東京大学演習林において自然体験を実施した。現地の講師やインストラクターの方に自然事象について、実物を見ながら教えていただいた。



【設問に取り組む児童】

木の年輪の幅の違いに注目することで、その木の一生について、友達と意見を伝え合いながら考えたり、リスの餌の隠し場所が複数箇所あることからリスの習性について考えたりする中で自然に興味をもち活動を進めることができた。インストラクターから示された問題を解決するために、グループ内で自分の考えを伝え合う活動が自然と生まれた。自然の成り立ちについて、考えを巡らせることができた。

夜の振り返りの学習では、「林」と「森」の違いに注目することで、富士山周辺に自然のままだで残っている自然の少なさや、オオカミの絶滅によりシカが急激に繁殖したことを学んだ。固有植物の減少は、様々な自然環境や生活環境の変化が関係していることを、資料を基に学ぶことができた。

以上のことから、ネイチャーハントを通して、富士山周辺に生息する動植物について理解すると共に、富士山周辺の自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じることができた。

2 星空学習

天候にも恵まれ、雲ひとつない中で、講師の方の説明を受けながら星空を観察することができた。4年生の理科「星の明るさ」や「月や星の動き方」の学習と関連付け、明るさの等級に着目したり、星の高さや位置に注目したりすることができた。さらに、星座早見盤を活用して観測した星の名前を確認したり、見付けたい星座を探したりすることができた。

また、東京では観測することができなかった「はくちょう座」を観測することができ、学習内容の補完として活動の目的を果たすことができた。

<社会体験活動>

1 草木染め体験

講師から、草木染めの工程について資料を基に説明を受けながら活動をすすめた。まずは、絞り加工を行った。児童は、示された資料を参考に、布の絞り方を工夫した。どのように絞るとどのような模様になるのか考えながら活動を進めることで、互いの活動に興味をもち、話し合ったり、協力したりして作業することができていた。



【染液の中に布を入れている様子】

染めの工程では、セイタカアワダチソウを乾燥させ、煮出して作った染液の中にハンカチを入れる。その後、鍋から布を取り出し、ミョウバン水につけて色を定着させた。この工程を繰り返し、最後に絞り加工を外し、どのような模様が出来上がったのかを確かめた。出来上がった絞りの模様に、児童は、嬉しそうな表情を見せていた。

染色工程の待ち時間には、講師から、今回使用したセイタカアワダチソウについての説明を受けた。セイタカアワダチソウは外来種の植物であり、外来種によって在来種が受ける影響や、富士周辺の自然環境の課題、外来種の活用の可能性などについて学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 ふじさんミュージアム

「ふじさんミュージアム」では、富士山信仰の起源と変遷、歴史について、プロジェクションマッピングや様々な展示を通して、分かりやすく学ぶことができた。

富士山そのものについてだけでなく、富士北麓の風土から生まれた織物などの産業や食文化、祭りなどの文化について詳しく知ることができ、興味深かった。リーフレット制作の情報収集の場としても適していた。



【プロジェクションマッピングを見る児童】

○児童の感想

- ・富士山は何度も噴火を重ねて日本一の高さになれたことが分かりました。
- ・昔から日本人は富士山と関わって生きてきたことが分かり、すごいと思いました。
- ・写真で見ると富士山の下の方は青く見えて、自然がないのかと思っていたけれど、富士山にも、富士山の周辺にも本当にたくさん的大自然があって、綺麗だと思いました。講師の先生の話が分かりやすく、富士山周辺には自然の出来事がたくさんあることを知ることができました。世界自然遺産の登録には至らなかったけれど、改めて、富士山には自然がたくさんあることが分かりました。
- ・東京では、星は全然見えないけれど、山中湖村では東京の倍以上星が見えて、東京と山中湖村ではこんなにも明るさが違うことに驚きました。
- ・私は一番宿の中が心に残りました。なぜなら、みんなで共同生活をし、それぞれのいいところや苦手なことを見付け合えたからです。互いに苦手なことは手伝いました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

友達との集団生活する経験をするにより、全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことを全体で確認し、意識して行動するよう指導した。また、今回学んだ学習課題の調べ方や表現方法は、セカンドスクールにも生かされると考えている。初めての宿泊体験に緊張や不安を抱く児童もいたが、プレセカンドスクールを通して、宿泊を伴う集団生活に自信をつけることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・「ふじさんミュージアム」は、児童にとって理解しやすい展示内容があり、プロジェクションマッピングなど、児童の関心を高める展示の工夫もされていた。富士山やその周辺の歴史や文化を学ぶのに有効であった。また、日程の最初に「ふじさんミュージアム」見学を位置付けたことで、富士山や富士周辺の全体像を掴むことができた点がよかった。
- ・ネイチャーハントでは、実物を目の前にしながら、動物や自然について体験的に学ぶことができた。事前・事後学習と結び付け、ネイチャーハントで学んだことをリーフレット制作に生かす児童もいた。
- ・ネイチャーハントの振り返り活動では、児童には理解が難しい内容もあり、講話の内容については事前の詳細な打ち合わせが必要であると感じた。また当日の気候や児童の体調面を考慮すると、振り返り活動は屋外ではなく、屋内で行う方がよい。
- ・草木染め体験では、どのような絞り模様が出てくるのか最後まで分からないところが、児童の興味を高めた。一人一人が工夫し、オリジナルの作品をつくることができた。外来種の植物を染液の材料とすることにより、自然環境について考えさせることができるのはよかった。
- ・草木染め体験においては、染液の材料となる植物に対するアレルギーの有無を事前に確認する必要がある。

本宿小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

11月25日～11月26日(1泊2日)

参加人数 男子34名 女子37名
計71名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 宿舎等での生活を通して、集団生活の基礎や自主的・自律的に生活する力を身に付ける。
- ・ 富士河口湖の自然や文化を知り、体感を伴った理解を得る。
- ・ 富士河口湖町の自然・文化について課題を選択し、体験したことや収集した情報を関連付けながら解決する。
- ・ 様々な体験活動や親元を離れた宿舎での集団生活を通して、協調性を育む。
- ・ 富士河口湖の豊かな自然の中に身をおき、自然を大切にしようとする態度を育てる。

○日程表

11月25日(木)		11月26日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝の会
9:00	談合坂 SA (トイレ休憩)	7:30	朝食
10:00	青木ヶ原樹海ハイキング	8:30	部屋の掃除・荷物整理
12:30	昼食	9:30	染物体験
13:00	富士湧水の里水族館	11:45	昼食
	忍野八海散策	12:30	閉校式・宿舎発
16:00	宿舎着・開校式	14:00	談合坂 SA (トイレ休憩)
17:00	夕食	15:00	学校着・帰校式
18:00	月・星観察 自然の話	15:30	解散
19:15	入浴・学習の記録		
20:15	健康観察・明日の準備		
21:00	就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県について知っていることを話し合い、初めて聞いた言葉や物について調べた。その後、4つのテーマを掲示し、興味をもった課題について個人で調べ学習を行った。児童が調べたことを参考に、10テーマに分かれ、各班でスライドを活用して発表を行った。
- ・学年で、何のためのプレセカンドスクールなのか、その目的（めあて）を共有した。同時に宿泊や集団生活におけるルールやマナーについて指導した。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだこと、これからの生活に生かしていきたいことをまとめ、発表した。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 青木ヶ原樹海ハイキング

各クラスに、現地講師が2人付き、青木ヶ原樹海の自然についての説明を聞きながらハイキングを行った。溶岩の上に木がむき出しになっている様子や、倒木更新があちこちに見られた。多くの児童が富士山の歴史に興味をもち、進んで話を聞き、自然に親しむ様子が見られた。



【青木ヶ原樹海ハイキングの様子】

＜社会体験活動＞

1 富士湧水の里水族館

富士湧水の里水族館では、富士五湖や周辺の川に生息する魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。流水水槽や回遊水槽など、自然に近い環境が整えられており、オープンラボコーナーなどの工夫を凝らしていた。児童は館内を自由に見学することで、様々な角度から観察をすることができた。



【富士湧水の里水族館を見学する様子】

<生活・文化体験活動>

1 染物体験

事前に、ハンカチに割りばしや輪ゴムを使って様々な紋りを入れ、現地に持参した。「セイタカアワダチソウ」を使用して作った焙煎液にハンカチを漬け、水でよく洗い、ミョウバン水につけて色を定着させ、また水で洗う。この工程を繰り返し行い、最後にハンカチを広げて、浮かび上がった様々な模様を、嬉しそうに見せ合う姿が見られた。「セイタカアワダチソウ」から美しい黄色が生まれることや、自然の力、染物の技術の素晴らしさを体験することができた。



【染物体験の様子】

○児童の感想

- ・集団生活の中では食事やお風呂の時間などが決まっていたので、友達同士で今は何をするのか、次は何をするのか、声を掛け合い、協力することを意識したことで、楽しく2日間過ごすことができました。改めて、協力することの大切さを学びました。
- ・忍野八海がなぜ透明なのか、理由がよく分かりました。事前学習で忍野八海を調べ、写真で見たことがあったけれど、実際に見ると思ったより透明できれいだったので驚きました。
- ・草木染めが思ったよりもきれいに染まって嬉しかった。他の植物ではどんな色になるのか、どんな絞り方があるのか気になったので調べてみたい。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

1泊2日の宿泊体験を通して、友達と協力することや生活のルールやマナーを守ることの大切さを実感させた。また一人一人が係を担当し、責任をもって活動することができた。式や会の挨拶や司会進行、入浴や食事の時間や部屋の整理整頓の声掛けなど、児童が率先して行動する場面を設け、来年度のセカンドスクールに自信をもって望めるように指導をした。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地講師を依頼したことで、児童の関心を保ちながら、様々な体験をすることができた。
- ・児童は初めての宿泊体験の中で、集団生活の基礎・基本を学ぶことができ、来年のセカンドスクールに向けて大きな成果があった。
- ・各学級に指導員を2～3名配置したことで、安全面の確保や個別の支援などを十分に行うことができた。

千川小学校

10月6日(日帰り)

山梨県甲州市

参加人数 男子 24 名 女子 14 名
計 38 名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や人々の生活等、課題解決に必要な知識を身に付ける。
- ・現地での学習を通して、課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度を養う。
- ・集団生活を通して互いのよさを生かしながら、積極的に社会参画しようとする態度を養う。

○日程表

10月6日(水)	
7:20	学校集合・出発式
7:30	学校出発
9:30	菱山共選場見学
11:00	ブドウ農家作業体験
12:20	昼食
13:10	現地出発
15:00	学校到着・到着式
15:20	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・地図帳の統計資料を活用し、山梨県の基本情報（人口、地形、名産品など）をつかみ、社会科の学習と関連付けた。
- ・過去のプレセカンドスクールの写真を見ながら、活動場所や活動内容、2泊3日の行動予定やプレセカンドスクールのめあてを知った（単元開始当初は、2泊3日の予定で取り組んだ）。
- ・総合的な学習の時間「プレセカンドスクールで学ぼう」の単元の課題を「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」と設定し、学習計画を立てた。
- ・富士五湖、富士山周辺の自然や歴史、暮らし、産業などについてインターネットで検索したり図書資料を活用したりして情報収集を行った（中央図書館の学校連携事業を活用する）。その中から興味・関心のある事柄、現地で特に詳しく学習したい事柄を課題として設定し、さらに情報を集めた。

- ・しおり配付後、集団生活を通してどんな力を身に付けるのかを具体的に伝え、行動班のメンバーでめあてを確認した。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で設定した、「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」の目標達成のために、探究してきた課題についての事前学習と現地学習をまとめ、SKYMENUの「シンプルプレゼン」を使って、スライドを作成した。スライド作成後、伝えたいことを整理し、発表原稿を作成、発表練習後に3年生へ発表した。
- ・発表会についての振り返りと、単元の学習全体についての振り返りを行った。

○特色ある学習内容

＜社会体験活動＞

1 共選場見学・農作業体験(ブドウの収穫)

菱山共選場で、農家で収穫されたブドウを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷する前の仕事について学んだ。この地域で生産されているブドウの品種や、等級分けについて実際に働いている方の様子を見ながら説明を受けることができた。

その後、ブドウの生産農家やJAフルーツ山梨の方の指導のもと、加工用のブドウ「甲州」の収穫作業を体験した。おいしいワインになるように変色した実を切り落としたり、ブドウでいっぱいになったコンテナを運んだりすることを通して、仕事に携わっているという感覚をもつことができた。実際に農作業を体験することで、普段自分たちが食べているブドウが多くの人の手間を掛けなければできないということや、安全で美味しい農作物を育てる工夫や苦労があるということを学ぶことができた。また、事前学習で生まれた疑問について質問することで解決し、学習を深めることができた。



【ブドウ農家作業体験】

○児童の感想

- ・今年のプレセカンドスクールは日帰りになってしまったけれど、一日でも行くことができて良かったです。
- ・四年生全員で行っても大変だったブドウ収穫のお仕事を普段は2～3人で行っていると聞いて、びっくりしました。おいしいブドウを食べてもらいたいという気持ちが伝わってきました。
- ・おいしくてきれいなブドウを作るのはとても大変な仕事だということが分かりました。果物を作ってくれている農家さんに感謝して食べたいと思いました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・今年度は日帰りとなってしまったが、自分たちの住む地域から遠く離れた場所で友達と協力することで、活動に気持ちよく取り組むことができた。さらに、友達と楽しさを共有し、より多くの感動やよい経験を積むことができると実感することができた。セカンドスクールでは、宿ごとの活動も多く、自分たちで考えて取り組む場面も増えるため、今回の経験を振り返りながら、友達と協力することの大切さや共に生活することの充実感を感じられるようにする。
- ・自ら課題を追究しながら事前、現地、事後と学習を進めていく中で、学習課題の調べ方や情報の整理の仕方、資料の表現方法などを学んだ。セカンドスクールでも、今回学んだことを生かし、新潟県南魚沼市について自分の課題を設定し、解決に向かって学習を進めていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は感染症対策により日帰りの行程となり、当初予定していた活動の大半が実施できず、自然の美しさや雄大さを味わうための場や時間が十分に確保できなかった。また、課題として設定していた目的地に行くことができなかった児童も多く、自分の課題をじっくり深めるための場が不十分であった。自分の課題以外の場所でも課題意識をもって活動に取り組むことができるように、事前学習の段階で個人の課題を学級全体で共有しておく。
- ・年々夏の暑さが厳しくなっていることからブドウの収穫時期が早まっている。もう少し早い時期に農業体験ができるように JA の方と相談していく。

井之頭小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

11月19日(日帰り)

参加人数 男子48名 女子50名
計98名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩町について、人・もの・自然の現状やよさを理解し、関わる人々の願い、工夫、努力が分かる。
- ・情報を収集、比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
- ・東京都の水源とその働きと東京都、及び奥多摩町の人々や生活との関わりを学ぶ。
- ・自分の関心から課題を設定し、解決方法を考えて追究している。
- ・多摩町について、課題に応じて情報を集めている。
- ・武蔵野市と比較・分類し、客観的に把握することで、奥多摩町の特徴を見付けている。
- ・奥多摩町についての課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。
- ・奥多摩町についての課題の解決に向け、身近な人々と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。

○日程表

11月19日(金)	
7:00	学校集合 出発式
7:10	出発
10:00	水と緑のふれあい館見学
11:20	移動
11:30	昼食(弁当)
12:10	鹿角ストラップ作り
12:50	水源林ウォーク
14:10	移動
14:30	奥多摩駅周辺散策
15:10	奥多摩出発
17:30	学校到着
17:40	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・奥多摩町の自然や動物、環境、文化などについて、書籍やインターネット等を使って調べ学習を行った。調べた内容を整理して、分かりやすくまとめた。
- ・奥多摩町の小学校2校との交流を兼ねて、調べ学習から分かった武蔵野市との違いをテーマに市や学校のPR動画を作成した。奥多摩町の小学校からは、奥多摩町の特徴や見所を紹介してもらった。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールで体験したことや学んだこと、伝えたいことを3年生に向けて紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 水源林ウォーク

グループで森林の中を歩いた。鹿やいのししの糞から、生息する動物の生態について詳しくレクチャーを受けた。その際、強い動物と弱い動物、昆虫との関係について児童が質問をして食物連鎖について知った。かわいい、見たいと思っていた鹿について、鹿害により、農家の方が困ったり悩んだりしている事実を知り、驚いていた。鹿害の対応として、季節や動物の様子によって対策の方法を変えながら、影響が広がらないようにしていることを学んだ。

紅葉が美しい季節だったので、四季の移り変わりについて知り、一年間で最も良い時期に訪れたことに喜んでいて、ペットボトルに入れた湖の水を、土の中に染み込ませる実験を行った。理科の授業で行った校庭の土や砂などの実験を思い出し、あまりの染み込む速さに驚いていた。さらに、染み込んだ水が長い年月をかけて、奥多摩町から武蔵野市に届くことを知ると、自然の神秘を実感し、感動していた。



【水源林ウォーク】



【水源林ウォークでのレクチャー】

2 鹿角ストラップ作り

鹿角を触ったり、持ったりして鹿角の鋭さや鹿の体長について知った。鹿角のストラップ作りでは、「世界にたった一つの宝物を作る」とやすりを使ってピカピカに磨いていた。



【鹿角のストラップ作り】

<社会体験活動>

1 社会奉仕活動の様子を知る

奥多摩町を紹介してくれた古里小学校の児童が行っている、奥多摩駅の清掃活動の取り組みについて知った。駅の公衆便所はとても清潔に保たれ、事前に紹介してもらったとおり、使用する人の気持ちを考えて清掃している様子がよく分かった。また、町の役に立っていることに気付き、感心している児童もいた。さらに、手洗い場にメッセージが用意されていたことに気付きとても喜んでいた。



【交流のある小学校の奉仕活動調べ】

2 礼儀・マナーを身に付ける

お世話になる方や、お世話になった方への挨拶、バス車内でのマナーなど礼儀について学んだ。挨拶係の児童だけでなく、児童全員で声を掛け合っていた。

<生活・文化体験活動>

1 町の文化や人々の生活に触れる体験的活動

水と緑のふれあい館では、小河内ダムの歴史や町の人々の思いについて触れ、ダム完成までの苦労や努力などについて知った。完成後の人々の生活の変化について考えながら学んでいた。

実際のダムの広さや深さを見て、水量の多さを理解して、東京都の水源になっていることについて改めて驚いていた。ダムの奥にあるダム建設中に亡くなった方の墓があることを知らされると、自分達の命が大勢の方の努力や思いによって存在していることを実感していた。

○児童の感想

- ・プレセカンドスクールに行く前は、同じ東京都だから、武蔵野市とそんなに変わらないだろうと思っていました。調べ学習で気温が低いことや自然・動物が多いことも分かっていまし

たが、実際に行ってみると、自然の中でくらしていることにおどろきました。友達とずっと一緒にいるのは学校と変わりませんが、自分たちで時計を見ながら予定を確認して行動することが楽しかったです。毎日、プレセカンドスクールだったらいいのと思いました。これからのまとめ学習も頑張って、3年生が来年、行くのを楽しみにしてくれるようにします。

- ・プレセカンドに行って学んだことは、グループで協力して楽しむことです。私は、バスの移動時間が不安でした。バス酔いが強いからです。でも、皆で奥多摩クイズを出し合ったり、おしゃべりしたりしていたら、あっという間に時間が過ぎてしまって、少しも酔いませんでした。奥多摩に着いたらすぐに水源林ウォークです。土に水を吸い込ませる実験では、あっという間に水が土の中に入り込みました。これが地下水となって、40年後に武蔵野市にも届くかもしれないと知りおどろきました。シカ角のストラップ作りでは少しずつつけて自分だけの作品に仕上げました。実際に体験することで、調べたことを確認したり、もっと奥多摩町に興味をもったりして楽しかったです。これからのまとめ学習では、来年の4年生のために、行った経験を生かして発表します。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・プレセカンドスクールを通して、健康観察をしたり、身の回りを整頓したり、時間を守ったりといった集団行動における最低限のマナーや準備の仕方を理解できた。また、気持ちのよい挨拶を自分からすることで、感謝の気持ちを表現したり、雰囲気明るくしたりすることで学習意欲が高まることも実感できた。セカンドスクールでは、日程が長くなることで、自分だけでなく集団を意識した言動が必要となる。ルールやマナーを知っているだけでなく、実際に行動することで、学習がより楽しくなることを理解した児童が多い。
- ・プレセカンドスクールは、流れを大切に、事前の学習や事後の学習が一体となった学習であることを常に児童に理解させるように努めた。さらには、運動会などの他の行事とも絡めて指導が単体でなく、教育活動全体を通して児童の好奇心や探究心を喚起し、意欲を持続させ、達成感を味わえるようにした。
- ・来年度、プレセカンドスクールに参加する3年生に向けた発表会を設け、プレセカンドスクールで学んだことを振り返るようにした。その際、「もっと～したかった」「～するとどうなっていたんだろう」といったことは、児童自身が来年度のセカンドスクールでチャレンジできるように指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・日程の短縮や、交流が制限される中、大自然に親しむ、文化に触れるといった児童が日常生活では体験できないようなプログラムに組むことができた。児童は目的を意識して楽しみながら過ごしていた。
- ・児童一人一人に責任をもたせるために仕事を分担して取り組ませた。当日までに仕事があるもの、当日に仕事があるものなど、比重は様々であったが、自分だけでなく班や集団を意識した言動に繋がった。

- ・児童にとって、体験を通して不安だったことが解消され、セカンドスクールへの意欲が高まった。
- ・11 月という時期もあり、早朝から、暗くなった夜にかけてのプログラムとなってしまった。
- ・交流が制限されたことで、例年行われてきた地元小学校との交流を諦めざるを得なかった。今後の交流が途絶えないよう、相手校や協力諸機関と連携を図り、実施したい。

関前南小学校

静岡県島田市大井川

11月17日～11月19日(2泊3日)

参加人数 男子36名 女子31名
計67名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験的な活動や現地の人々の話から得た情報から課題に対する理解を深める。
- ・現地の人々の話と関連付けて工作や調理をしたり、視点を定めて地形や自然を観察したりできる。
- ・事前学習で調べたことを発表したり、疑問点を質問したりすることができる。
- ・現地の人の話や体験活動から得た情報を整理して新たな課題をもつことができる。
- ・事前学習で調べたことを修正したり、課題を整理したりする態度を養う。
- ・友達と協働的に学び、互いのよさを認め、多様性を整理する態度を養う。

○日程表

11月17日(水)		11月18日(木)		11月19日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
	蓬萊橋着	8:00	野外活動センター出発	8:30	野外活動センター出発
	昼食	8:50	千頭駅着	9:30	カドデオオイガワ着
12:00	蓬萊橋～大茶園フィールド	9:00	大井川鉄道アプト区間乗車		・お茶ゾーン見学
12:15	ワーク	10:30	接岨峡温泉着・長島ダム見学		・お茶の淹れ方体験
13:00	金谷製茶工場見学	11:45	両国つり橋着・昼食		・門出駅SL見学
	野外活動センター着・入浴	13:45	野外活動センター着		・交流会
14:45	夕食	14:00	自然体験学習(水生昆虫観察・丸太切り体験)		・学校案内
16:00	学習の記録・明日の準備			12:15	昼食
18:00	消灯・就寝	17:00	入浴	13:20	カドデオオイガワ出発
19:30		18:00	夕食	16:45	学校着
21:00		19:00	学習の記録・明日の準備	17:00	帰校式
		21:00	消灯・就寝		解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、大井川流域の地形や気候、生活の様子などについて学習した。
- ・お茶、大井川鉄道、水生昆虫、つり橋、ダム等、自分が探究したいテーマを見付け、本やインターネットの調べ学習で課題解決の見通しをもたせた。現地で何を調べるのか、自分のめあてを明確にさせた。
- ・地域の農家で茶摘み体験をしたり、お茶のインストラクターを招いて製茶体験をしたりした。
- ・千川上水で水生昆虫の調査をしたり、建築現場の廃材を譲り受け、のこぎり体験を行ったり

した。

- ・ 宿舎での係を決めたり、過ごし方について話し合ったりした。出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。

2 事後の学習内容

総合的な学習の時間に「大井川流域のよさを伝えよう」をテーマにして、事前に調べたことや体験したことをまとめ、学習者用コンピュータのスライド機能を使ってプレゼンテーションを行った。探究した課題は次の通りである。

- ・ 丸太切り・・・・・・・・・・林業の現状や丸太切りの方法の紹介
- ・ お茶・・・・・・・・・・茶農家の仕事や製茶工場の仕事の紹介
- ・ つり橋・・・・・・・・・・つり橋の仕組みについての紹介
- ・ 蓬莱橋・・・・・・・・・・蓬莱橋の歴史や構造の紹介
- ・ 水生昆虫・・・・・・・・・・伊久美川で観察した水生昆虫の種類と特徴の紹介
- ・ お茶の淹れ方・・・・・・・・淹れ方によるお茶の色の違いや甘みと苦みの紹介
- ・ リニア中央新幹線・・・・・・・・地域の人たちのねがいを紹介
- ・ 茶葉を使った加工品・・・・茶葉を使って生産されているスイーツ等の紹介
- ・ 大井川鐵道・・・・・・・・大井川鐵道で使われている SL の紹介
- ・ 大井川鐵道アプト区間・・・・アプト式機関車の歯車とラックレールについての紹介

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 林業体験

植林をした後、継続的に山を管理していくことの大切さを学ぶとともに、スギやヒノキやヒメシャラの特徴を教わりながら丸太切り体験を行った。

2 水生昆虫観察

河原で水生昆虫を採集して観察した。千川上水と河原の様子を比較しながら、石の下生き物を採集することにより、環境と生き物の暮らしについて考えることができた。

3 ストーンペインティング

大井川や支流の伊久美川の河原で拾った石にアクリル絵の具で絵を描いた。児童は流れる水の働きによって河原の石が丸みを帯びていることに気付くとともに、採集した石の形からイメージを膨らませて絵を描いた。

<社会体験活動>

1 蓬莱橋を渡る

風雨に耐えられるように、できる限り釘を使わずに木を組み合わせて造られていることや、川の両岸に広がる茶畑を往来するために、橋が重要な役割を果たしてきたことを学んだ。

2 牧之原大茶園フィールドワーク

大井川を見下ろす高台に広がる大茶園を歩いた。大井川の川越人足が仕事を失い、大茶園の開拓に尽力した歴史や、防霜ファンを回すことで茶の新芽が傷まないように工夫していること、水は上流の長島ダムから引いていることを学んだ。

3 製茶工場見学

茶農家が加工した荒茶を製茶する工程を見学した。製茶は、おおまかに「蒸す→揉む→乾燥させる」の3つの工程に分けられることを学んだ。見学者は頭に帽子を被り、靴にビニルを被せることで衛生管理を行っていることを学んだ。

4 大井川鐵道アプトライン体験乗車

急こう配の区間では、歯車を備えた電気機関車が客車を押していることを体験的に学んだ。大井川鐵道を学習のテーマに選んだ児童は、機関車を連結する場面を見学した。また、トンネルと鉄橋の多さや車窓から見える急峻な稜線から、大井川上流部の地形を学んだ。

5 長島ダムの見学

ダムを見下ろす高台からダムの下まで徒歩で下り、ダムの下に架かるしぶき橋を渡り、さらにダムの管理事務所がある高台まで徒歩で登ったことにより、ダムの大きさを体験的に学んだ。また、「ダムカード」の裏面の情報から、ダムの役割を学んだ。

6 みかんの試食

「かんざみかん」は地域の神座地区だけで生産されているみかんである。児童は、神座地区が、海からの距離と標高および日照が適度に良いため、生産に適していることを学んだ。このみかんは、収穫されたままのみかんであり、洗浄されたり、ワックスが塗られたりしていない。児童は、見かけだけでは判断できない品質の良さを学んだ。

7 観光客に手を振る

大井川鐵道の沿線に住む人々は、列車に手を振ることで観光客をもてなす取り組みをしている。児童は、長島ダムより後続の列車に手を振り、地域の活動に参画するとともに、観光客をもてなすときの心情を体験的に学んだ。

<生活・文化体験活動>

1 お茶の淹れ方体験

カドオオイガワでは、緑茶ツアーで自らが茶葉となり、製茶される疑似体験を経験した。また、お茶の淹れ方についても体験的に学ぶことができた。同じお茶の葉から、緑茶や紅茶やほうじ茶が生産されることや、淹れ方によって緑茶の色や、甘みと苦みに違いがでることを学習した。

○児童の感想

- ・蓬莱橋は思っていたよりずっと長かったです。大井川の水がとてもきれいでした。
- ・大茶園の広さを武蔵野中央公園と比べて説明してくれたので、よく分かりました。
- ・宿泊施設の食事がおいしかったです。もとは学校だったと聞いてびっくりしました。
- ・大井川鐵道からの紅葉がきれいでした。窓から大井川を見るのがちょっとこわかったです。
- ・長島ダムは大きさがよく分かりました。ダムカードを集めようと思います。
- ・つり橋を渡るとき、ドキドキしました。けっこうゆれましたが、だいじょうぶでした。
- ・つり橋はこわかったです。川の上を渡るときはゆっくり歩きました。
- ・水生昆虫がたくさんいたのでびっくりしました。千川上水より石がいっぱいありました。

- ・河原で三角形の石を拾ったので、ストーンペインティングではおにぎりの絵を描きました。
- ・丸太切りはけっこう大変でした。学校でのこぎりの練習をしておいてよかったです。
- ・丸太を切った板で「ぶんぶんごま」を作るのが楽しみです。
- ・カドデオオイガワの緑茶ツアーが楽しかったです。製茶のことがよく分かりました。
- ・本物のSLが大きいことがよく分かりました。はじめは模型だと思いました。
- ・行きも帰りも富士山がよく見えました。中央道と新東名で見え方が違いました。
- ・もう1泊したかったです。



【大茶園を歩く】



【列車に手を振る】



【つり橋を渡る】

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊を伴う学習なので、持ち物や集団生活の心構えの指導に重点をおいた。
- ・ゲストティーチャーの方との交流を大切に、挨拶や感謝の言葉が言えるよう指導した。
- ・課題のつかみ方からプレゼンテーションまでの学習の流れが理解できるように指導した。
- ・指導員の先生方の指示を聞いて、持ち物や部屋の整理整頓ができるよう指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・午前中に島田市に到着できるか心配であったが、バスの運転手の判断により東名高速道路の渋滞を避けて中央道経由に変更したことにより、予定通りに到着できた。来年は2ルート計画して、道路状況によって行程を決めるとよいことが分かった。
- ・蓬莱橋から大茶園に至るフィールドワークはJA おおいがわのゲストティーチャーの説明を受けながら、茶畑の規模を体験的に学ぶことができた。事前に関前地区の畑で茶摘み体験をしていたことも、茶畑の広さを理解することにつながった。防霜ファンは風で回っているだけだったので、事前に動画で作動しているところを見せておくよかった。
- ・製茶工場は機械の音で説明を聞き取れなかったが、紙面で各工程の説明が付けられていたので理解できた。事前に、手作業による製茶体験を行ったことも理解の一助となった。
- ・事前にアプトラインの学習をしておいたので、風景を眺めるだけでなく、急こう配をラックレールと機関車の歯車で登っていることを実感できた。事前にアプト式機関車を連結する動画を見せておくよかった。
- ・長島ダムは実際に歩いて見学したことで大きさを実感できた。管理事務所は休館日であったが、事前に連絡しておいたので後日ダムカードを受け取ることができた。
- ・昼食のお弁当に割りばしが入っていなかったため、食事が遅れてしまった。来年は、お弁当を受け取る際に確認をする。今回は急遽近くの商店で割りばしを購入したが、地域のどこにどのような店があるか、ある程度は調べておくよかった。
- ・丸太切り体験は大井川森林組合の協力のもと実施することができた。来年度は、間伐体験を行いたい。
- ・水生昆虫の観察は、静岡県庁水産資源課の職員を招聘して行った。平日にもかかわらず、ボランティアでゲストティーチャーを引き受けていただいた。

- ・カドデオオイガワでは製茶の工程を疑似体験できたので、製茶工場での理解を深められた。
- ・カドデオオイガワは、施設のコンセプトがお茶による緑化計画であることがよく分かり、地域おこしの学習にもつながられる内容であった。



【水生昆虫の観察】



【丸太切り体験】



【緑茶ツアーズ】

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

11月12日(日帰り)

参加人数 男子80名 女子72名

計152名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山や山中湖周辺の自然に触れ、周辺の自然について理解を深める。
- ・富士山や山中湖周辺での活動を通して、人々や文化に触れ、自分たちの生活を支えてくれる人々や文化について理解を深める。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。
- ・集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。

○日程表

11月12日(金)	
7:00	集合
7:15	桜野小学校発
9:30	山の遊歩道散策
10:30	鳴沢氷穴見学(1・3組)
	富岳風穴見学(2・4組)
11:15	鳴沢氷穴見学(2・4組)
	富岳風穴見学(1・3組)
12:00	ほうとうの実食と講話
13:00	さかな公園着
14:30	さかな公園発
16:45	桜野小学校着、解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、富士山のでき方や、山中湖周辺の自然や文化について、現地のネイチャーガイドの方に学習者用コンピュータのビデオ会議システムで講話をしていただいた。
- ・講話の中で興味がひかれたものを中心に児童はそれぞれ学習のテーマを設定し、調べ学習に取り組んだ。調べた内容はスライドにまとめ、互いに発表し合い、富士山のでき方や、山中湖周辺の自然や文化について理解を深めた。
- ・学級活動で、プレセカンドスクールで自分が大切にしたいことを考え、めあてに設定した。

2 事後の学習内容

- ・国語の俳句の学習でプレセカンドスクールでの感動を、五・七・五で表現した。
- ・学級活動で、自分が設定したためあてに対して、活動がどうだったか振り返り、学んだことを友達同士で共有した。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 山の遊歩道散策

自然解説員から、武蔵野市では見ることができない樹木や植物について詳しく説明を受けた。児童が飽きることがないように、イラストを示すなど、工夫しながら話してくれた。また、天気恵まれ、富士山の赤い山肌や眼下に広がる景色に、児童は驚きを見せていた。樹木や植物を実際に見ることで武蔵野市との違いを肌で感じることができた。



【山の遊歩道の散策】

2 富岳風穴・鳴沢氷穴見学

ネイチャーガイドを1学級に2名配置し、風穴や氷穴のでき方や、寒冷な気温を利用して、昔は繭玉の保管に使われていたことなどの説明を受けた。外気との気温の違いを肌で感じることで、自然の冷蔵設備としても利用されていたことを体験的に学ぶことができた。



【風穴見学】

＜社会体験活動＞

1 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に生息する魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は、透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、富士山の湧水に手を入れたり、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったりする体験的な学習もできた。



【富士湧水の里水族館の水槽】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

学級ごとに4つの民宿に分かれ、ほうとう作りの講話を伺った。昼食には、山中湖周辺でとれた野菜を具材に入れたほうとうを食べた。現地で食べるほうとうの味は格別だったようで、何度もおかわりをするなど、普段の給食よりたくさん食べる姿が見られた。「おいしかった」「ごちそうさまでした」など感謝の言葉をそれぞれが自発的に宿の方に伝えている姿が印象的だった。



【いただいたほうとう】

○児童の感想

- ・自分たちも朝早くからの出発だったけど、バスの運転手さんやガイドさんは、自分たちよりもっと早く起きて、準備してくれていたから、乗るときには必ず感謝の気持ちを伝えた。
- ・昔から伝わる富士山の話聞いて、たくさんの人に大切に守られてきたことを知りました。
- ・溶岩の石を初めて触りました。穴がたくさんあいているのは、空気がでていったせいだと知って驚きました。
- ・友達がバス酔いで辛そうだったときに、引率の先生が優しくサポートしてくれていて、自分たちのために働いてくれているんだなと感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・富士山は、遠くから見ると青く、登って見ると赤かったです。
- ・東京では見られないきれいな景色を見ることができました。
- ・東京には緑が少ないので、もっと自然を大切にしたいと思いました。
- ・風や雨の影響で木が倒れてしまっていたけれど、それでも頑張っている様子に、自然の力強さを感じました。
- ・富士湧水の里水族館では、富士山の湧き水に生息する魚について詳しくなりました。
- ・ほうとうは、とれたての野菜がたくさん入っていて、とてもおいしかったです。
- ・班のみんなで時間を守ること、協力することの大切さを学びました。この経験をセカンドスクールに生かしたいです。
- ・日帰りだったけど、みんなが時間を守って行動していたので、予定通りの体験ができたし、時間通りに学校に帰ってくることができました。時間を守るとは、これからも学校で生活するときに生かしていきたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けて、「時間を意識して行動すること」、「仲間と協力すること」、「他者へ感謝の気持ちをもつこと」を学年の目標にし、学習を続けた。一人一人が係を担当し、責任をもって活動することができた。見学先で、式や会の挨拶や司会進行、食事や、グループ活動時の言葉かけなど、児童が率先して行動する場面を設け、「自分たちでつくり上げるプレセカン

ドスクール」を実践した。多くの児童が、「今、何をすべきなのか」ということを考えながら、行動することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・当初予定していた富士山世界遺産センターでの活動はコロナの影響を受け、2学級ずつしか入館できなかったため断念した。次年度以降は、コロナ禍であることや大人数の学校であることを踏まえ、今年度のように別の施設や体験活動を検討した方がよいと感じた。風穴・氷穴は各学級でローテーションを組むことができ、密を避けることができた。
- ・富士湧水の里水族館では、密を避けるために水族館グループとアスレチックグループ、森の学習室グループに分かれてローテーションを組んだが、各グループでの体験時間が少し短縮されてしまった。次年度は同じローテーションを組むのであれば、時間にゆとりをもたせた方が、学習効果を高めることができる。
- ・山の遊歩道散策と風穴・氷穴見学は、自然解説員を設置している団体があるが、児童数が多いことを理由に、実施不可となる可能性もある。今年度は、NPO 法人富士山ネイチャークラブに依頼し、解説員を手配することができた。
- ・宿舎との連携を円滑にするために、アレルギー対応など、事前の打ち合わせを綿密に行う必要がある。
- ・教員と生活指導員で事前に共通理解を図り、充実した活動ができるようにする。

令和 4 年 3 月 発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒 180-8777

東京都武蔵野市緑町 2 - 2 - 28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

令和三年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

令和四年三月

武蔵野市教育委員会